令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

（公務員デジタル人材育成モデル構築事業）

公務員デジタル人材育成モデル構築事業

〈公務員試験直前対策科目 テキスト教材〉

本教材は、文部科学省の教育推進事業委託費による委託事業として、学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校が実施した令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」の成果物です。

学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校

令和７年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

（公務員デジタル人材育成モデル構築事業）

公務員デジタル人材育成モデル構築事業

〈事業成果報告書・教材ツール収納リンク〉

https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox/information#m_itaku

令和７年度　公務員デジタル人材育成モデル構築事業

公務員試験直前対策科目　カリキュラムガイド

本ガイドは、令和７年度　文部科学省　地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業　公務員デジタル人材育成モデル構築事業（委託先：学校法人浦山学園　富山情報ビジネス専門学校）において委員会で討議、検討された内容を基に開発された。
本事業は、地域デジタル社会に適応した人材を育むことができる学科へ高度化を図ることを前提とした人材育成モデルの構築を目指すものであり、公務員試験直前対策科目（以下、「本科目」という）においても生成 AI 等のデジタルツールの利活用をふまえて設計している。
本ガイドは、本科目の指導におけるガイドラインとして作成しているが、運用にあたっては教育機関の授業時間設定や授業コマ割り等も考慮して使用することを前提とする。

本ガイドの構成は以下の通りである。

１．　科目の位置づけ
２．　科目のコンセプト
３．　本科目が育成する能力と意図
４．　カリキュラム全体像
　　シラバスと評価規準、成果測定
　　付属資料
５．　生成 AI を組み込む教育的意図と運用ルール

目　次

1．科目の位置づけ …… 5

2．科目コンセプト …… 6

（1）本科目：全体コンセプト …… 6

（2）本科目を実現する「科目内・各単元コンセプト」 …… 6

①AIリテラシー・AI活用 …… 6

②一般教養試験対策 …… 6

③作文試験対策 …… 6

④面接試験対策 …… 6

3．本科目が育成する能力と意図 …… 7

4．カリキュラム全体像 …… 7

（1）設計時間：90分/コマ×15コマ …… 7

（2）カリキュラムの流れ …… 7

（3）カリキュラム全体 …… 8

（4）授業評価方法ツール …… １０

（5）学習成果物 …… １０

（6）評価規準 …… １０

①評価の基本方針 …… １０

②評価規準 …… １０

③ルーブリック …… １１

④評価方法 …… １２

（7）コマシラバス …… １２

①授業１：AIリテラシーと公務員試験AI対策-８ …… １２

②授業２：AIリテラシーと公務員試験AI対策-９ …… １９

③授業３：作文試験対策-１（国家公務員一般職試験過去問題を活用した演習） …… ２６

④授業４：作文試験対策-２（市役所等試験過去問題を活用した演習） …… ３２

⑤授業５：作文試験対策-３（公安職試験過去問題を活用した演習） …… ３８

⑥授業６：一般教養試験対策-１（国家公務員一般職試験過去問題を活用した演習） …… ４４

⑦授業７：一般教養試験対策-２（市役所等試験過去問題を活用した演習） …… ５１

⑧授業８：一般教養試験対策-３（公安職試験過去問題を活用した演習） …… ５９

⑨授業９：一般教養試験対策-４（デジタル学習ツールを活用した演習①） …… ６６

⑩授業10：一般教養試験対策-５（デジタル学習ツールを活用した演習②） …… ６９

⑪授業11：一般教養試験対策-６（デジタル学習ツールを活用した演習③） …… ７２

⑫授業12：一般教養試験対策-７（デジタル学習ツールを活用した演習④） …… ７５

⑬授業13：面接試験対策-１（伝わる話し方と一分間トレーニング） …… ７８

⑭授業14：面接試験対策-２（生成AIを活用した面接試験対策①） …… ８１

⑮授業15：面接試験対策-３（生成AIを活用した面接試験対策②） …… ８９

５．生成AIを組み込む教育的意図と運用ルール …… ９７

（１）直前対策科目における生成AI活用の基本方針 …… ９７

（２）直前対策科目におけるAI活用ルール …… ９７

（３）直前対策科目におけるルールの意図 …… ９７

６．委員名簿 …… ９８

実施委員 …… ９８

事業推進委員 …… ９９

巻末資料「Comトレサンプル」 …… １００

１．科目の位置づけ

本科目は、公務員を目指す専門学校に在籍する卒業年次生を対象とした、試験対策の最終段階を担う科目として位置づけられる。

本科目は、教養試験、作文試験、面接試験といった、公務員試験において合否を直接左右する主要分野について、試験直前期に必要となる「解答の正確性」「適切な受け応え」「評価される文章表現力」を育成することを目的とする。

単なる総復習や問題演習の積み重ねではなく、限られた残り時間の中で、合格に必要な力を発揮できるように学生を引き上げる科目である。

そのため科目編成上、本科目は傾向分析科目の後段に配置されている。これは傾向分析科目が、試験制度や出題傾向の理解、読解力や作文力の基礎形成、生成 AI やデジタルツールの考え方と基本的な使い方を通じて、「効率的な情報整理」と「試験対策の土台」を作る科目であるのに対し、本科目は、その土台の上に立ち、実際に点を取り、評価を獲得する力へと転換する役割を担う。

公務員試験対策においては、「理解していること」と「試験で発揮すること」の間には大きな隔たりがある。多くの学生は、授業中には理解できていても試験という環境下で時間制限の中で問題文を解き、作文を作成し、面接での質疑応答を行う場合、質問意図の取り違えや情報の整理不足といった要因により、本来の力を十分に発揮できないまま失点してしまうことがある。

本科目は、この「理解しているができない」という状態を解消し、「どの分野でも、しっかりとアウトプットできる」力を育むことを目指す。

また、本科目では、従来の公務員指導において教員の負担となってきた、作文初歩からの個別添削指導や模擬面接指導、授業外での教養試験フォローから、学生が生成 AI 等のデジタルツールを使い基本的箇所を自走的にチェックし、修正したうえで教員に内容面を指導してもらうように設計している。

このように、本科目では、学生が傾向分析科目で身につけた生成 AI 等のデジタルツールの基礎的な使い方を前提に、教員は「内容の質」「考え方の指導」に専念できる授業構造を実現する。

最後に、公務員分野においてもデジタルツールの利活用は必要不可欠であり、近年加速度的に発展している生成 AI については、本科目でも実践的な使用を前提にカリキュラムを構築している。そのため、公務員を目指す文系学生に特有なデジタルアレルギーは、本科目の履修を通して解消し、デジタルツールを業務で使う場合、どのような位置づけで、どのように使用するかを理解した学生を育成することができるため、本科目をデジタル公務員としてのスタート科目としても位置づけられる。

なお、評価規準およびコマシラバスについては、基準として定めるものである。ただし、学校の指導方針および授業の進捗状況等をふまえ、必要に応じて変更することも可能とする。

２．科目コンセプト

（１）本科目：全体コンセプト

本科目の全体コンセプトは、「傾向分析科目で形成された基礎的な理解、判断、読み解きの力を、試験で確実に発揮する」ことにある。

従来型の直前対策では、問題数をこなす、作文や面接練習の量を増やす、といった量を中心にした学習になりがちであった。

しかし、この方法では量に対応する教員の負担が増大し、学生も時間をかけて量をこなし、解法テクニックを反射応答的に習得していくことになってしまい、これからの社会に求められるデジタルツールの利活用を学ぶ時間が確保できないという課題があった。

本科目では、こうした課題をふまえ、アウトプット中心、改善プロセス重視、デジタルツールの補助利用という観点で、教員が関わる指導内容の質的変化と学生が試験で確実なアウトプットを実現すること、そして何より学習の中で生成 AI 等のデジタルツールを活用することでデジタル社会に対応した公務員の素地を築くことをコンセプトとする。

（２）本科目を実現する「科目内・各単元コンセプト」

①AI リテラシー・AI 活用

教員の代わりに答えを出させるためではなく、学生が自走的に学習し、面接等の練習をするための道具として活用する。なお、本科目における生成 AI の活用は、判断や内容作成を生成 AI に委ねるものではなく、学生が考え、改善するための補助ツールとして位置づけ、時間効率、学習効率を上げるツールとして活用する。

また、学生は生成 AI 等の使用に際して、AI リテラシーを高めるとともに、生成 AI 等が持つ社会的課題（著作権等知的財産権の取り扱い、事実の担保）にも触れることができる。

② 一般教養試験対策

傾向分析で身につけた読解力を前提に、「分かる」から「時間内に解ける」へ転換し、類題演習と弱点補強で得点力を高める。

③ 作文試験対策

学生自身が、生成 AI を補助的に活用して改善箇所の抽出、修正や文体の見直し、文章構造、論理展開の再構成を行う。そのうえで、教員は採点者視点に立ち、「内容表現」と「評価される構成」に集中して指導できる。

④ 面接試験対策

声量や発話リズムをセルフチェックし、暗記ではなく質問意図の理解と自らの回答内容を整理し、矛盾なく伝えられる状態を作る。

３．本科目が育成する能力と意図

本科目は、傾向分析科目と本科目を独立した別科目として扱うのではなく、能力育成の段階に応じて連続的に接続する構成として設計している。

本科目では、傾向分析科目で育成した力をアウトプットし、さまざまな問いに対して確実に解答するための能力を段階的に積み上げていく。

さらに、本科目で育成する能力は、公務員試験対策だけではなくデジタルツールを補助的に活用することで、デジタルの利便性と活用時の留意点、社会的な課題を理解することができるため、デジタル時代に求められる公務員の基礎力育成へとつなげていくことができる。

このことから、両科目を通じた一連の学習は、「合格するための学習」と「公務員として活躍するための基礎力育成」を同時に実現する構成となっている。

本科目では以下の能力を重点的に育成することを目指す。

・試験対応力（問いを把握し解答を導く力、習得内容を試験で再現する力）
・論理的で分かりやすい文章・発話を構成する力
・学習の自走性（主体的な改善力）
・デジタル活用力（効率的な学習を行うためのツールの活用能力）

４．カリキュラム全体像

（１）設計時間：90 分/コマ×15 コマ

本カリキュラムは、45 分または 50 分単位の授業から、２授業連続による 90 分授業、あるいは 100 分授業への移行を想定し、45 分を１単位とする２コマ構成を基本としている。そのため、90 分授業の場合は２コマを連続して実施することで完結し、100 分授業の場合には、導入時の意識付けや振り返り、課題作成等の時間での調整ができるように授業実施の柔軟性を考慮して設計している。

（２）カリキュラムの流れ

本カリキュラムは、15 コマを通じ、以下のような科目で構成されている。

【自治体等直前対策】 自己分析/自己 PR 作成/志望動機作成/生成 AI 活用
【作文試験対策】 作文作成/生成 AI によるチェック
【一般教養試験対策】 アウトプット力育成/生成 AI による問題生成
【面接試験対策】 面接問答の作成/セルフチェック/回答矛盾の確認、内容整理

（３）カリキュラム全体

	項　目	細　目	授業時間	資料等	評価対象
1	自治体等直前対策	直前対策	45 分	有	-
		自己 PR・志望動機			
		自己 PR・志望動機の生成 AI 活用			
	自治体等直前対策	学校既存授業（例：自己 PR・志望動機の作成）	45 分	-	
2	自治体等直前対策	学校既存授業（例：自治体へのエントリー）	45 分	-	生成 AI レポート課題
	自治体における生成 AI 活用	自治体の取り組み		有	
		自治体における生成 AI 活用事例①			
		自治体における生成 AI 活用事例②			
		自治体の課題			
		公務員 DX 人材に求められるスキル			
	直前対策科目まとめ	「生成 AI レポート課題」の作成		-	
3	作文試験対策	「作文試験」の実施（例：国家一般職過去問題）	90 分	-	添削済み作文
		生成 AI を活用した作文添削		有	
4	作文試験対策	「作文試験」の実施（例：市役所等過去問題）	90 分	-	添削済み作文
		生成 AI を活用した作文添削		有	
5	作文試験対策	「作文試験」の実施（例：公安職過去問題）	90 分	-	添削済み作文
		生成 AI を活用した作文添削		有	
6	一般教養試験対策	「教養試験」の実施（例：国家一般職過去問題）	90 分	-	教養試験結果
		AI を活用した解説		-	
		AI を活用した類似問題の作問および演習		-	
7	一般教養試験対策	「教養試験」の実施（例：市役所等過去問題）	90 分	-	教養試験結果
		AI を活用した解説		-	

		AI を活用した類似問題の作問および演習		-	
8	一般教養試験対策	「教養試験」の実施（例：公安職過去問題）	90 分	-	教養試験結果
		AI を活用した解説		-	
		AI を活用した類似問題の作問および演習		-	
9	一般教養試験対策	デジタル教材を活用した問題演習および解説	90 分	-	-
		AI を活用した類似問題の作問および問題演習		-	
10	一般教養試験対策	デジタル教材を活用した問題演習および解説	90 分	-	-
		AI を活用した類似問題の作問および問題演習		-	
11	一般教養試験対策	デジタル教材を活用した問題演習および解説	90 分	-	-
		AI を活用した類似問題の作問および問題演習		-	
12	一般教養試験対策	デジタル教材を活用した問題演習および解説	90 分	-	-
		AI を活用した類似問題の作問および問題演習		-	
13	面接試験対策	学校既存授業（例：面接の基本スキル）	45 分	-	-
		伝わる話し方と一分間トレーニング	45 分	有	
14	面接試験対策	学校既存授業（例：長所・短所等の作成）	45 分	-	-
		生成 AI を活用した面接練習	45 分	有	
15	面接試験対策	生成 AI を活用した面接練習	45 分	有	生成 AI 面接履歴
		学校既存授業（例：生徒同士の面接練習）	45 分	-	

（４）授業評価方法ツール

授業評価として、以下に例示するテスト・レポート等を実施することを想定している。

・生成 AI レポート課題

生成 AI に関するレポート課題により評価を行う。

・作文添削

生成 AI を活用した作文添削結果の提出により評価を行う。

・一般教養試験対策

一般教養試験の過去問題を解いた結果または、デジタル学習ツールでの学習実績を確認し、評価を行う。

・生成 AI 面接履歴

生成 AI を使用したセルフ面接練習の履歴を印刷し提出することをもって評価を行う。

（５）学習成果物

①自己 PR、志望動機

②作文添削結果

③デジタル学習ツール利用履歴

④面接練習結果

（６）評価規準

①評価の基本方針

本科目では、教養、作文、面接の各試験において、試験時間の中で一定レベルの解答や対応ができているか、評価される形でアウトプットしているかを評価対象とする。

また、学生が自ら課題を把握し、改善に取り組む学習の自走性や、生成 AI 等のデジタルツールを学習支援として適切に活用できているかについても評価に含める。これらの評価を通じて、合格力の発揮だけでなく、デジタル時代に対応した公務員としての基礎実践力の育成を図る。

②評価規準

観点	育成したい資質	能力	説明
①試験対応力	試験での実力発揮度	制限時間や緊張下でも、学習結果を再現できる力	教養試験・作文・面接において、実際の試験と同様の環境でも学習結果を再現できているかを評価する。
②解答・表現の完成度	評価されるアウトプットを目指す姿勢	正確で分かりやすい解答・表現力	問われている内容を正確に捉え、評価者に伝わる形で答案や発話を構成できているかを評価する。

③学習の自走性	主体的に改善しようとする姿勢	課題を把握し改善する力	教員の指示を待つのではなく、自身の弱点や課題を認識し、改善に取り組めているかを評価する。
④デジタル活用力	学習を効率化しようとする姿勢	デジタルツールを適切に活用する力	生成 AI やデジタルツールを補助的なツールとして学習場面で適切に使えているかを評価する。
⑤公務員基礎実践力	公務員としての意識	情報整理・伝達・判断の力	作文や面接を通じて、論理的に考え、分かりやすく伝える公務員としての適性が発揮できているかを評価する。

③ルーブリック

到達レベル			
4	3	2	1
①試験対応力			
制限時間や緊張下でも、教養、作文、面接において習得内容を再現できている。	基本的な対応はできているが、解答や対応にばらつきがあり、再現性に課題がある。	理解はあるが、時間制限や緊張下で力を十分に発揮できない。	本番条件を想定した対応が難しく、基礎からの見直しが必要。
②解答・表現の完成度（評価されるアウトプット）			
問われている内容を正確に捉え、評価者に分かりやすく伝わる解答・表現ができている。	内容はおおむね適切だが、構成や表現に改善の余地がある。	伝えたい内容はあるが、整理不足や表現の不十分さが目立つ。	解答・表現が評価基準に達していない。
③学習の自走性（主体的な改善）			
自身の課題を把握し、改善に向けて主体的に取り組めている。	教員の助言をもとに改善に取り組めている。	課題は理解しているが、改善行動が十分でない。	指示がなければ改善に取り組めない。
④デジタル活用力（学習支援としての活用）			
生成 AI やデジタルツールを目的に応じて	指示があれば活用できている。	活用しているが、効果が限定的である。	学習に十分活用できていない。

適切に使い、学習効率を高めている。			
⑤公務員基礎実践力（試験後につながる力）			
情報を整理し、論理的に分かりやすく伝える力が身についている。	基本的な整理・伝達はできている。	伝えようとする姿勢はあるが、整理や論理性に課題がある。	公務員として求められる基礎的な実践力が不足している。

④評価方法

・出欠

・授業時の参加度（教員による観察）

・成果物（作文添削結果、面接練習履歴等）の内容

・テスト結果

（７）コマシラバス

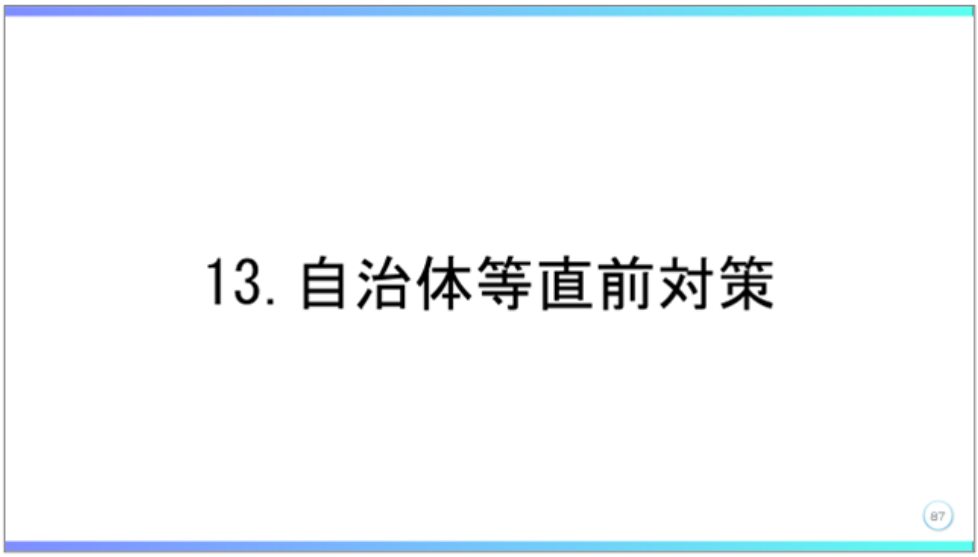
①授業１：AI リテラシーと公務員試験 AI 対策- 8

授業の位置づけ
AI を活用した公務員試験対策を目的として、生成 AI を活用し、試験直前期に必要となる自治体等の最新の採用情報や試験傾向を整理する。 さらに、自治体等へのエントリー向けた最終確認につなげる。 教材該当項目「13．自治体等直前対策」
到達目標
１．試験直前期に必要な採用情報・試験内容を整理する視点を理解する。 ２．自治体等へのエントリーや面接を想定し、自己 PR や志望動機等を整理する方法を理解する。 ３．生成 AI を活用して、自己 PR や志望動機等を客観的に見直す方法を理解する
授業構成
自治体等の最新の採用情報や試験傾向を整理し、エントリーや面接に向けて自己 PR や志望動機等の最終調整を行う。

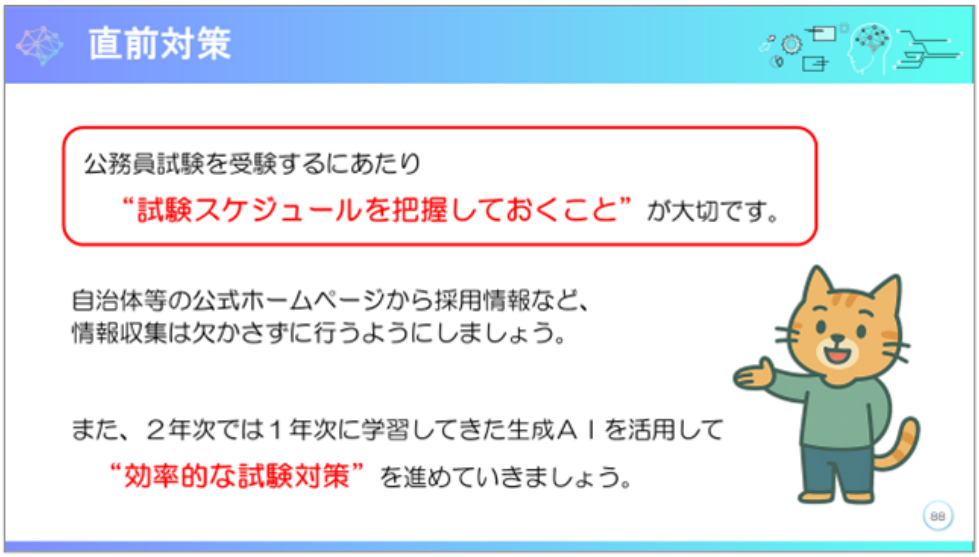
使用教材
AI リテラシーと公務員試験 AI 対策
授業進行
指導者用授業ガイドに従って授業を進行する。
評価観点
１．試験直前期に必要な採用情報を適切に判断・整理できているか ２．自治体へのエントリーに向けて、自己 PR や志望動機等を整理できているか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
授業の取り組み姿勢（質疑での発言、改善への取り組み）を基に評価する。

□授業進行

以下の指導者用ガイドに従って進行する

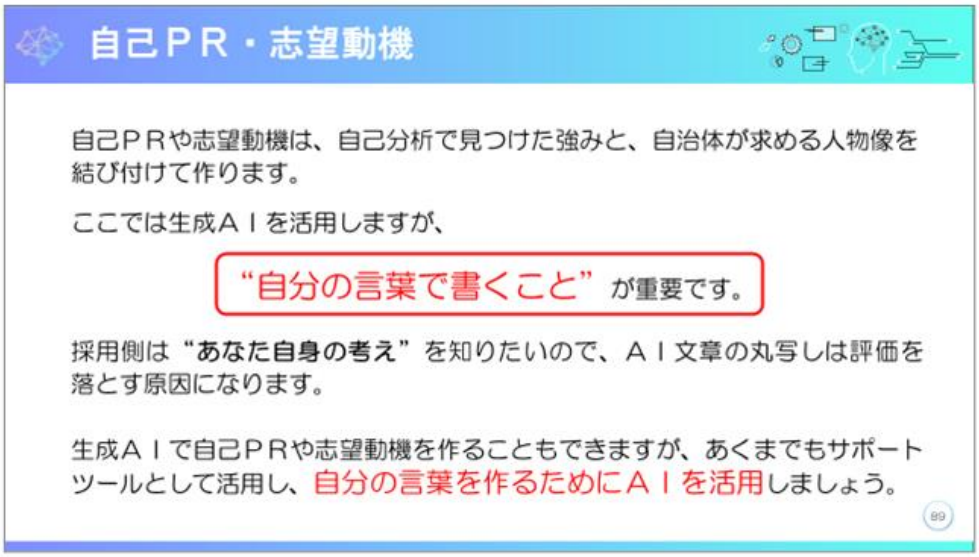


67



公務員試験を受験するうえで、まず重要となるのは「試験スケジュールを正確に把握すること」です。自治体ごとに、「試験日程」「試験形式」「募集人数」などが大きく異なります。そのため、公式ホームページを定期的に確認し、最新の採用情報を継続的に収集する習慣を必ず身につけましょう。

2年次では、1年次に学んだ生成ＡＩのスキルを基盤として、「採用情報の収集」「作文添削」「面接練習」「一般教養試験対策」の効率的な試験対策を進めていきます。
生成ＡＩは、受験生の学習を支える“パートナー”です。適切に活用しながら、限られた時間で最大の成果を目指しましょう。

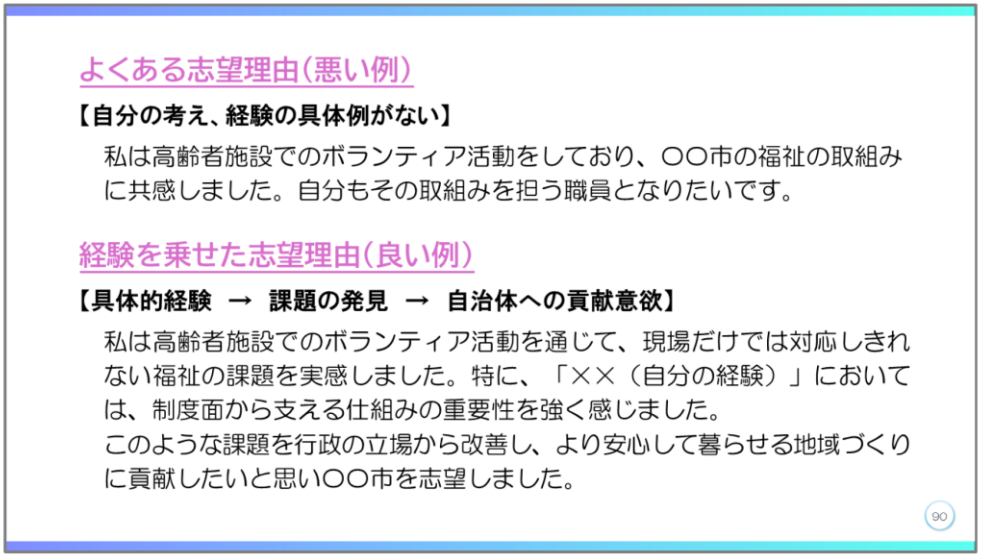


(1) 自己PR・志望動機の基本

自己PRや志望動機は、自己分析で見つけた強みと自治体が求める人物像を結びつけて作成します。生成ＡＩは整理作業を効率化できますが、最も重要なのは「自分の言葉で書くこと」です。採用担当者が知りたいのは、ＡＩが作った文章ではなく、あなた自身の考えや価値観です。ＡＩ生成文章をそのまま提出すると、内容が魅力的であっても評価が下がる可能性があります。

(2) 生成ＡＩ活用の注意点

生成ＡＩは、「強みの整理」「エピソードの洗い出し」「言い換え表現の提案」「読みやすい構成案の作成」といった作業をサポートする便利なツールです。
ＡＩを活用することで、自分では気づけなかった強みや視点が得られ、説得力のある文章に仕上げることができます。ただし、最終的な文章は必ず自分の言葉で仕上げることを忘れないようにしましょう。



志望動機は、「自分の経験」と「自治体の仕事」がつながっているかが最も重要です。

(1) 悪い例の問題点

経験の内容が抽象的で具体性がない
何を感じ、何に気づいたかが不明
多くの受験生と同じパターンで差別化ができない

(2) 良い例のポイント

具体的経験　→　実際に見聞きした事実が記載されている
課題の発見　→　なぜ改善したいと思ったかが明確
行政との関連　→　行政での役割と貢献が示されている
説得力　→　「自分にしか書けない理由」になっている

(3) 志望理由を書くときの基本ステップ

- 自分の経験を具体的に述べる
- その経験から気づいた課題・問題を示す
- 行政の立場でどのように貢献したいかを書く

この流れを押さえると、「あなたにしか書けない志望理由」が完成します。

□使用教材（AI リテラシーと公務員試験 AI 対策）

13. 自治体等直前対策

直前対策

公務員試験を受験するにあたり
“試験スケジュールを把握しておくこと”が大切です。

自治体等の公式ホームページから採用情報など、
情報収集は欠かさずに行うようにしましょう。

また、２年次では１年次に学習してきた生成ＡＩを活用して
“効率的な試験対策”を進めていきましょう。



自己ＰＲ・志望動機

自己ＰＲや志望動機は、自己分析で見つけた強みと、自治体が求める人物像を結び付けて作ります。

ここでは生成ＡＩを活用しますが、

“自分の言葉で書くこと”が重要です。

採用側は**“あなた自身の考え”**を知りたいので、ＡＩ文章の丸写しは評価を落とす原因になります。

生成ＡＩで自己ＰＲや志望動機を作ることもできますが、あくまでもサポートツールとして活用し、自分の言葉を作るためにＡＩを活用しましょう。

よくある志望理由（悪い例）

【自分の考え、経験の具体例がない】

私は高齢者施設でのボランティア活動をしており、○○市の福祉の取組みに共感しました。自分もその取組みを担う職員となりたいです。

経験を乗せた志望理由（良い例）

【具体的経験 → 課題の発見 → 自治体への貢献意欲】

私は高齢者施設でのボランティア活動を通じて、現場だけでは対応しきれない福祉の課題を実感しました。特に、「××（自分の経験）」においては、制度面から支える仕組みの重要性を強く感じました。
このような課題を行政の立場から改善し、より安心して暮らせる地域づくりに貢献したいと思い○○市を志望しました。

自己ＰＲ・志望動機の生成ＡＩ活用

１ 何を書けばよいかわからないとき

自分の経験やエピソードを生成ＡＩに投げかけて、深掘りしてもらいましょう。

例：私の経験を読み取り、内容の中で曖昧な部分を指摘し、一つずつ深掘りする質問を作成してください。最後に「大変だったこと」「工夫したこと」「成長した点」の３つに分けて整理してまとめてください。

２ ある程度まとまったとき

生成ＡＩに添削をしてもらいましょう。ただし、**全てＡＩの添削どおりに直していくと自分の言葉ではなくなってしまう危険性があります。**

ＡＩの添削は参考材料。最終的な表現は必ず自分で決めましょう。

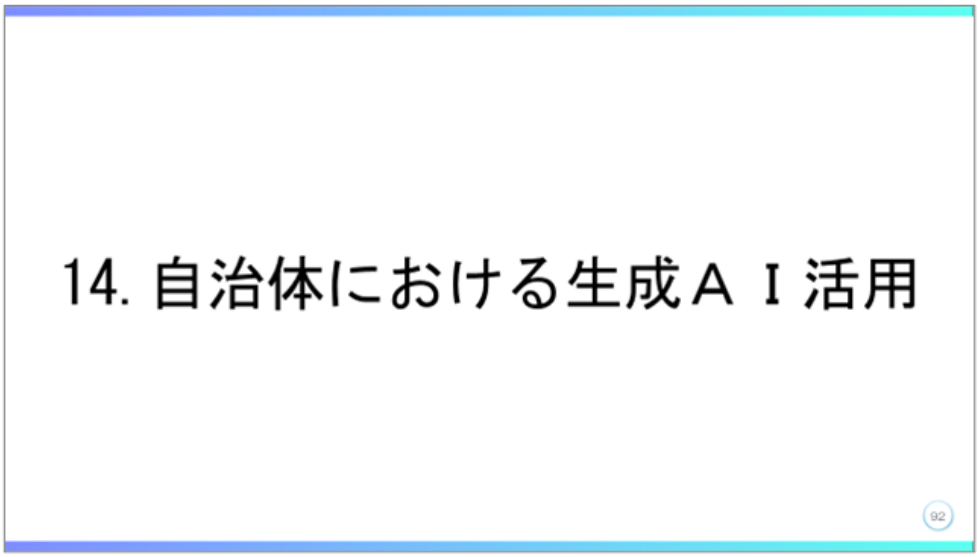
②授業２：AI リテラシーと公務員試験 AI 対策- 9

授業の位置づけ
AI を活用した公務員試験対策を目的として、自治体における生成 AI の活用事例をもとに、行政分野での AI 活用状況と課題を整理する。さらに、これからの公務員 DX 人材に求められる役割やスキルを確認する。 教材該当項目「14．自治体における生成 AI 活用」
到達目標
１．自治体における生成 AI 活用の現状と主な取り組み内容を理解する ２．自治体における生成 AI 導入の課題やリスクを理解する ３．これからの公務員 DX 人材に求められる役割と能力を理解する
授業構成
自治体における生成 AI の活用事例や導入時の課題を整理し、行政分野での AI 活用の可能性と注意点について自分の考えをまとめる。
使用教材
AI リテラシーと公務員試験 AI 対策
授業進行
指導者用授業ガイドに従って授業を進行する。
評価観点
１．自治体における生成 AI 活用の全体像を具体的に説明できているか ２．自分の考えを「住民サービス」「公平性」「説明責任」など行政の視点に立って表現できているか ３．責任ある AI 活用の必要性を行政の立場から説明できているか

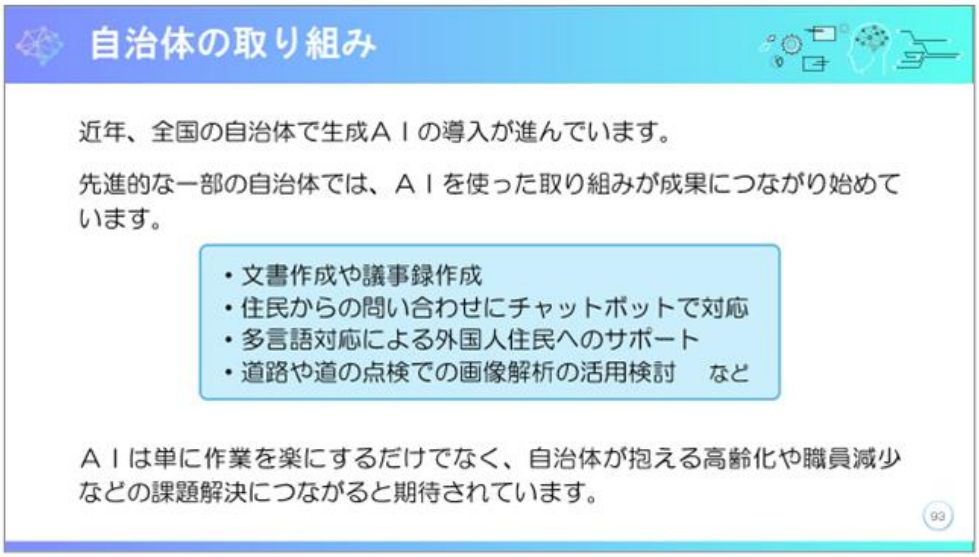
評価基準（授業単位での評価の参考）
AI リテラシーと公務員試験 AI 対策の総まとめとして、次のいずれか一つのテーマについてレポートを作成させ、「自治体における生成 AI 活用への理解」と「課題やリスクを踏まえた考察の妥当性」の２つの観点から評価を行う。 【レポート課題】 １．公務員として生成 AI をどのように活用できると考えますか、注意すべき点を踏まえてあなたの考えを述べなさい ２．生成 AI の活用が、市民サービスに与える影響について、利点と注意点を踏まえてあなたの考えを述べなさい

□授業進行

以下の指導者用ガイドに従って進行する



72



近年、全国の自治体で生成ＡＩの導入が進んでいます。これまでは民間企業での活用が中心でしたが、現在は行政の現場でもＡＩが本格的に使われ始めています。すでに先進的な自治体では、生成ＡＩを活用した取り組みが 具体的な業務改善や成果に結びついています。

■ 自治体の主な活用例

⑴ 文書作成・議事録作成

・文書のたたき台作成
・議事録の要約・整理

→ 文書作成にかかる時間を大幅に短縮し、職員が本来の業務に集中できるようになっています。

⑵ 住民からの問い合わせ対応（チャットボット）

・よくある質問への自動応答
・24時間対応の仕組みづくり

→ 窓口や電話の負担軽減と、住民サービスの向上につながっています。

⑶ 多言語対応による外国人住民のサポート

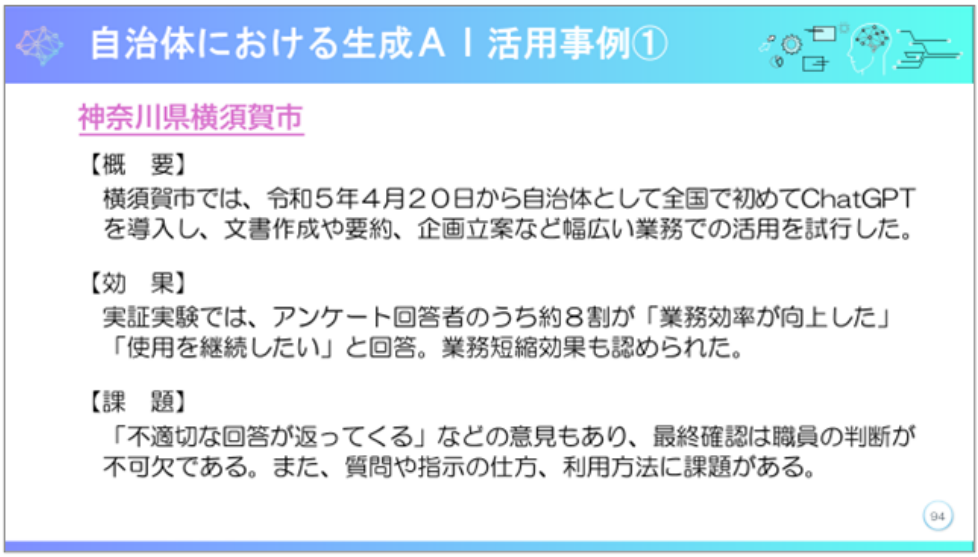
・翻訳機能を用いた相談対応
・多言語の案内文書の作成支援

→ 外国人住民とのコミュニケーションが円滑になり、暮らしやすい地域づくりに貢献しています。

⑷ 道路・施設点検での画像解析

・道路のひび割れ・老朽化の自動検知
・橋梁や公共施設の劣化判定の補助

→ 安全性の向上と、点検業務の効率化につながっています。



(1) 概要

横須賀市では、2023年(令和5年)4月20日から、ChatGPT を全庁的に活用する実証を開始しました。これは、自治体としては全国でも初期の先進的な取り組みとされています。このようなスピード感ある導入の背景には、「以前から進めてきたDX推進の仕組み」「行政改革に対する強い意志」がありました。導入にあたっては、既存のビジネスチャットツールとChatGPTを連携させ、職員が日常的に使いやすい環境を整備しました。その結果、特別なシステムを新たに構築せずとも、全庁展開が可能となりました。

(2) 導入による効果・成果

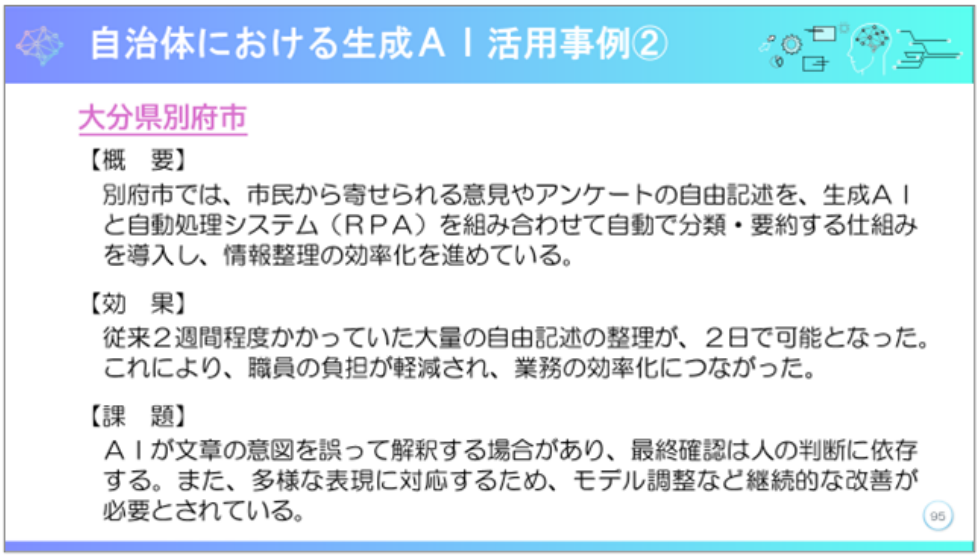
・導入後のアンケートでは、回答した職員の約8割が「仕事の効率が上がった」「継続して利用したい」と回答。

・文書作成、議事録作成、会議資料作成、調査・情報整理などで、業務時間が大幅に短縮。

例：あるデータ突合の作業は、従来2時間かかっていたものが約10分で完了するようになりました。

・年間で見込まれる削減業務時間は 約22,700時間相当と試算されており、大きな労働時間削減効果が期待されています。

・その他成果
業務効率化だけでなく、職員のデジタルリテラシー向上(庁内の意識改革や自治体間でのノウハウ共有の促進)といった効果も生まれています。
横須賀市では、生成ＡＩを「行政の働き方を変えるツール」として位置づけている点が特徴です。



(1) 概要

別府市では、令和5年（2023年）11月から、職員向けに生成ＡＩの本格利用を開始しました。生成ＡＩとRPA（自動処理システム）を組み合わせ、市民からの意見メールやアンケートの自由記述について、「分類」「要約」を自動化・効率化する仕組みを構築しています。単にＡＩを導入するのではなく、既存システムと組み合わせることで、自治体業務の効率化を現実のものにしている点が特徴です。

(2) 導入による効果・成果

これまで職員が一件ずつ目視で確認していた自由記述アンケートの整理作業は、約2週間を要していたが、生成ＡＩ × RPAの導入後は、同様の作業が 約2日間で完了するようになった。職員からは「大幅な時間短縮になった」「業務負担が軽くなった」といった評価が寄せられています。膨大な文章データの整理という、自治体にとって負担の大きい業務が、生成ＡＩの導入によって大幅に効率化された事例です。

(3) 課題と留意点

- ＡＩが文章を誤って解釈する可能性があるため、分類・要約の結果は必ず人が確認・判断する運用としている。
- 市民の多様な表現、あいまいな記述、感情を含む文章などに完全対応することは難しく、ＡＩモデルの継続的な調整・改善が必要である。
- RPAとＡＩを連携させる仕組みは一定の成果を上げた一方で、回答にかかる時間のばらつき「利用量（文字数）に応じたコスト」「処理の安定性」など、運用上の課題も報告されている。

(4) まとめ（授業上のポイント）

- ＡＩは「無理な仕事」「手間のかかる仕事」を効率化する強力なツールになり得る。しかし、万能ではなく、人によるチェックが必須である。
- 導入、活用には、制度設計・運用ルール・モニタリング体制が重要となる。
- 将来公務員を目指す場合、「ＡＩを使う力」だけでなく、「ＡＩを管理・運用する力」を身につけることが大きな強みになる。

□使用教材（AI リテラシーと公務員試験 AI 対策）

14. 自治体における生成ＡＩ活用

92

自治体の取り組み

近年、全国の自治体で生成ＡＩの導入が進んでいます。

先進的な一部の自治体では、ＡＩを使った取り組みが成果につながり始めています。

- 文書作成や議事録作成
- 住民からの問い合わせにチャットボットで対応
- 多言語対応による外国人住民へのサポート
- 道路や道の点検での画像解析の活用検討　など

ＡＩは単に作業を楽にするだけでなく、自治体が抱える高齢化や職員減少などの課題解決につながると期待されています。

93

自治体における生成ＡＩ活用事例①

神奈川県横須賀市

【概　要】
横須賀市では、令和5年4月20日から自治体として全国で初めてChatGPTを導入し、文書作成や要約、企画立案など幅広い業務での活用を試行した。

【効　果】
実証実験では、アンケート回答者のうち約8割が「業務効率が向上した」「使用を継続したい」と回答。業務短縮効果も認められた。

【課　題】
「不適切な回答が返ってくる」などの意見もあり、最終確認は職員の判断が不可欠である。また、質問や指示の仕方、利用方法に課題がある。

94

自治体における生成ＡＩ活用事例②

大分県別府市

【概　要】
別府市では、市民から寄せられる意見やアンケートの自由記述を、生成ＡＩと自動処理システム（ＲＰＡ）を組み合わせて自動で分類・要約する仕組みを導入し、情報整理の効率化を進めている。

【効　果】
従来２週間程度かかっていた大量の自由記述の整理が、２日で可能となった。これにより、職員の負担が軽減され、業務の効率化につながった。

【課　題】
ＡＩが文章の意図を誤って解釈する場合があり、最終確認は人の判断に依存する。また、多様な表現に対応するため、モデル調整など継続的な改善が必要とされている。

95

自治体の課題

自治体ごとの導入格差
日本には1,700を超える自治体があり、人口、財政、人材など課題が大きく異なります。そのため、ＤＸ化が進んでいる自治体と、そうでない自治体との差が広がっています。

人材不足とルールづくり
デジタルやＡＩを扱える職員が少ない自治体が多く、ＡＩを安全に使うためのルール作りも容易ではありません。

個人情報と透明性
住民の個人情報を適切に守ることが求められ、データ管理や安全対策が不十分だと信頼を損ねてしまいます。また、多くの自治体では、ＡＩが出した結論について「なぜそうなったか」を説明できる体制を整備できていません。

96

公務員ＤＸ人材に求められるスキル

1. **デジタル技術の基礎知識**
   ＤＸの前提となるＩＴ・ＡＩの基本的な仕組みを理解する力
2. **課題を発見し、業務を改善する力**
   現場の課題を見つけ、業務プロセスを見直し、改善につなげる力
3. **コミュニケーション力**
   住民、他部局、民間と連携し、相手にわかりやすく説明・調整する力
4. **データに基づいて判断する力**
   感覚ではなく、データを根拠に政策や業務を判断・改善する力
5. **AI活用のリスク管理への理解**
   プライバシー・公平性・セキュリティなどを踏まえ、ＡＩを適切に使う力
6. **変化に対応し学び続ける姿勢**
   技術や行政課題の変化に合わせて、柔軟に学び続け、アップデートする姿勢
7. **チームとしてDXを進める力**
   個人ではなく、組織全体でＤＸを推進できる協働力

97

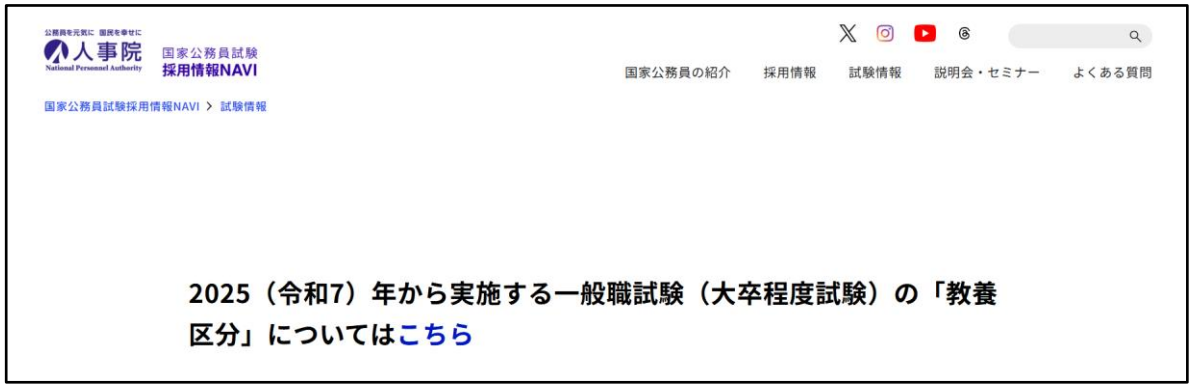
③授業３：作文試験対策-１（国家公務員一般職試験過去問題を活用した演習）

授業の位置づけ
直前対策科目における作文試験対策では、生成 AI を活用し、作文添削の効率化と作文力の育成を目的とする。 本コマでは、国家公務員一般職試験の過去問題を基に作文を作成し、生成 AI による作文添削を踏まえて改善点を把握し、表現力や構成力の向上を図る。 なお、実施する過去問題の種別は、各校の状況に応じて調整する。
到達目標
１．生成 AI を活用し、作文の基本的な改善点を把握する方法を理解する ２．生成 AI による添削結果を踏まえ、作文の表現や構成を見直す視点を理解し、改善につなげられる ３．教師が内容面に注力した指導を行うことで、作文全体の質を高める学習方法を理解し、実践できる。
事前準備
国家公務員一般職試験の作文試験過去問題を把握する （「国家公務員一般職　作文試験過去問題確認方法」のとおり）
授業構成
１．過去問題を基に作文を作成する ２．作文を撮影・テキスト化し、生成 AI を活用して添削を行う （「生成 AI を活用した作文試験対策」のとおり）
使用教材
国家公務員一般職　作文試験過去問題（人事院公開資料）
評価観点
１．基本的な作文ルールを理解し、適切に反映できているか ２．前回の作文と比較して、表現や内容に改善が見られるか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか

評価基準（授業単位での評価の参考）
1．傾向分析で学習した基本的な作文ルールが適切に反映されているか 2．前回の作文と比較して、内容および表現の両面で作文力の向上が見られるか

□国家公務員一般職　作文試験過去問題確認方法

1　人事院公式サイト（試験問題例｜国家公務員試験採用情報 NAVI）にアクセス



2　試験種別を選択



3　過去問題をダウンロード



□生成 AI を活用した作文試験対策

生成 AI を活用した作文試験対策

1　目　的

本資料は、公務員試験対策における作文添削の効率化および作文力育成を目的とし、生成 AI を活用した添削手法を示すものである。

2　生成 AI 活用の効果

近年、学生の作文力不足が課題となっている。また、これに伴い教員の添削業務の負担が増し、内容面まで十分に対応できないことも問題となっている。

本手法では、文法・表現・語彙・構成などの基本的な作文ルールの添削を生成 AI が担い、教員は内容添削に専念できるようになる。

3　生成 AI 添削の手順

(1)　作文をタブレット等で撮影する
(2)　撮影した作文をテキスト化する
(3)　生成 AI にプロンプトを入力する
(4)　テキストデータと画像データを入力する
(5)　生成 AI から出力された添削内容をに基に赤入れを行い、教師へ提出する

4　作文のテキスト化

(1)　概　要

令和６年 11 月現在、生成 AI は日本語の手書き文字を完全に読み取ることができないため、外部の OCR（光学文字認識）機能を用いてテキスト化を行う。本資料では「Google レンズ（Google 社が提供する画像認識サービス）」を用いた方法について説明する。

(2)　テキスト化



ア　　Google レンズは Google ブラウザまたは Google アプリから無料で利用可能できる。画像を撮影または画像アップロードし、テキストを抽出する。

イ　抽出したテキストをメモ帳等に貼り付け、余分な数字や誤変換などの相違点を修正するとともに、作文の読み直しを行う。

5　作文添削プロンプト

MY 生成 AI 活用を推奨する。

(1)　説　明

あなたは「高卒程度公務員作文試験」における作文添削の専門家です。

(2)　指　示

作文内容そのものの評価・批評は一切行わず、文法・表現・語彙・構成・論理性・文体の一貫性・読みやすさ・見やすさ・丁寧さなど、基本的な作文ルールのみを厳格に添削する。

A　評価の姿勢

(A)　厳正に指摘するが、受験者の人格を否定しない。

(B)　改善のため、必ず具体的なアドバイスを必ず添える。

(C)　点数評価は行わない。

B　添削の対象

テキストデータの文章

画像に現れた文字の癖、字の大きさ、行間、余白、段落の取り方など必要に応じて「見やすさ」について改善提案を行う。

C　出力形式

以下の構成で必ずこの順で出力する。

(A)　全体講評（作文内容には触れない）

文章の書き方、読みやすさ、論理性、構成、文体の整合性など、文章技術面の総評。

(B)　良かった点（文章技術のみ）

箇条書きで

文章表現の技術面に限る

※　内容の善悪・意見の評価は絶対にしない。

(C)　改善点（厳しめ／技術的観点のみ）

・文法の誤り
・語彙の選び方
・接続詞の適切性
・文のねじれ、冗長さ
・主語述語の対応
・段落構成、論理的な流れ
・文体の統一
・読みやすさを損なう要素

などを具体的に指摘する。

(D)　逐語修正（原文 → 修正版）

文章を 原文の構造を保ちながら、より適切な形に修正した「文単位での修正文」を提示する。

例）原文：〜〜〜　修正：〜〜〜

という形式で列挙する。

(E)　改善後の全文例（修正案）

上記の改善点をふまえて、内容は変えずに、文章技術だけ改善した「最適化された作文全文」 を提示する。

※　内容に関する批判や変更はしない。「書き方」の問題だけを修正する。

(F)　文字の癖や書き方の改善提案（画像が提供された場合）

画像を参照し、字の形、大きさの統一、行間、句読点の位置、余白、読

みにくさにつながる癖など、公務員試験の作文答案としてふさわしい書き方を改善提案する。

D　重要な禁止事項

(A)　作文内容の批評（意見の善し悪し、主張の評価、内容変更）

(B)　点数評価

(C)　受験生の人格への言及

(D)　内容を変える書き換え（意味が変わる修正）

6　生成 AI 添削の留意事項

生成 AI の出力結果を鵜呑みにすることなく、最終判断は必ず人間が行う。

7　その他

作文テーマや文字数などの情報を生成 AI に与えると、内容面に言及する可能性が高まるため、プロンプトにはこれらの情報を含めないものとする。

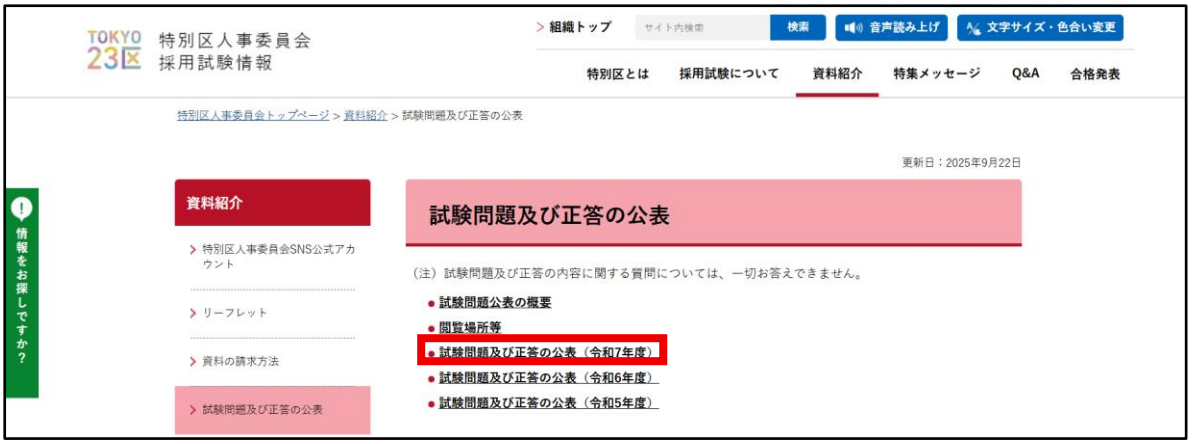
④授業４：作文試験対策-２（市役所等試験過去問題を活用した演習）

授業の位置づけ
直前対策科目における作文試験対策では、生成 AI を活用し、作文添削の効率化と作文力の育成を目的とする。 本コマでは、特別区Ⅲ類試験（市役所等）の過去問題を基に作文を作成し、生成 AI による作文添削を踏まえて改善点を把握し、表現力や構成力の向上を図る。 なお、実施する過去問題の種別は、各校の状況に応じて調整する。
到達目標
１．生成 AI を活用し、作文の基本的な改善点を把握する方法を理解する ２．生成 AI による添削結果を踏まえ、作文の表現や構成を見直す視点を理解し、改善できる ３．教師が内容面に注力した指導を行うことで、作文全体の質を高める学習方法を理解し、実践できる
事前準備
特別区Ⅲ類試験の作文試験過去問題を把握する （「特別区Ⅲ類　作文試験過去問題確認方法」のとおり）
授業構成
１．過去問題を基に作文を作成する ２．作文を撮影・テキスト化し、生成 AI を活用して添削を行う （「生成 AI を活用した作文試験対策」のとおり）
使用教材
特別区Ⅲ類　作文試験過去問題（特別区公開資料）
評価観点
１．基本的な作文ルールを理解し、適切に反映できているか ２．前回の作文と比較して、表現や内容に改善が見られるか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか

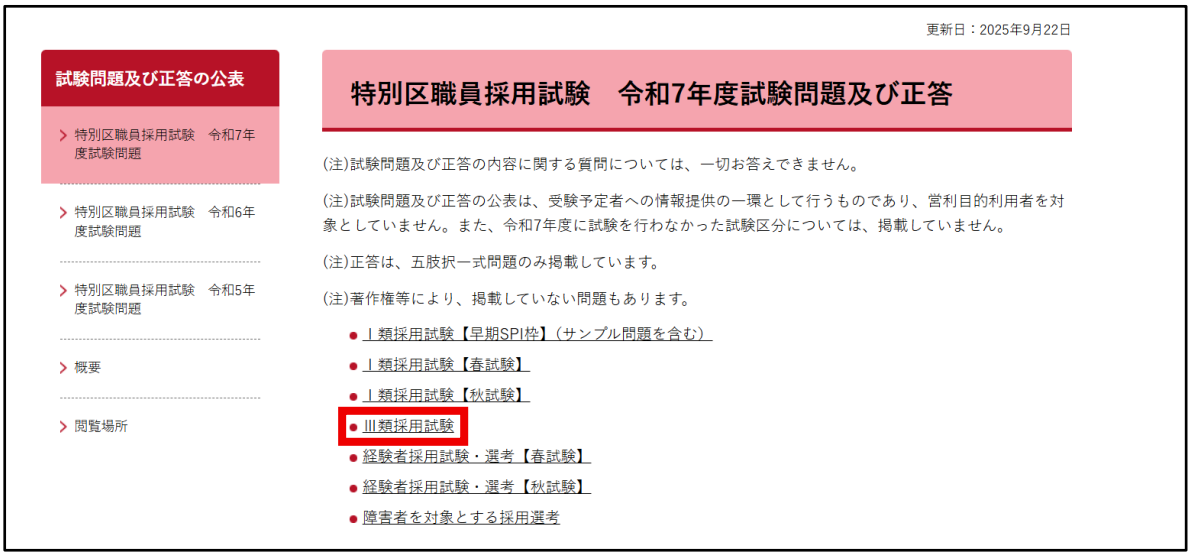
評価基準（授業単位での評価の参考）
1．傾向分析で学習した基本的な作文ルールが適切に反映されているか 2．前回の作文と比較して、内容および表現の両面で作文力の向上が見られるか

□特別区Ⅲ類　作文試験過去問題確認方法

1　特別区公式サイト（試験問題及び正答の公表｜特別区人事・厚生事務組合）にアクセスし、年度を選択



2　試験種別を選択



3　過去問題をダウンロード



□生成 AI を活用した作文試験対策

生成 AI を活用した作文試験対策

1　目　的

本資料は、公務員試験対策における作文添削の効率化および作文力育成を目的とし、生成 AI を活用した添削手法を示すものである。

2　生成 AI 活用の効果

近年、学生の作文力不足が課題となっている。また、これに伴い教員の添削業務の負担が増し、内容面まで十分に対応できないことも問題となっている。

本手法では、文法・表現・語彙・構成などの基本的な作文ルールの添削を生成 AI が担い、教員は内容添削に専念できるようになる。

3　生成 AI 添削の手順

(1)　作文をタブレット等で撮影する
(2)　撮影した作文をテキスト化する
(3)　生成 AI にプロンプトを入力する
(4)　テキストデータと画像データを入力する
(5)　生成 AI から出力された添削内容をに基に赤入れを行い、教師へ提出する

4　作文のテキスト化

(1)　概　要

令和６年 11 月現在、生成 AI は日本語の手書き文字を完全に読み取ることができないため、外部の OCR（光学文字認識）機能を用いてテキスト化を行う。本資料では「Google レンズ（Google 社が提供する画像認識サービス）」を用いた方法について説明する。

(2)　テキスト化



ア　　Google レンズは Google ブラウザまたは Google アプリから無料で利用可能できる。画像を撮影または画像アップロードし、テキストを抽出する。

イ　抽出したテキストをメモ帳等に貼り付け、余分な数字や誤変換などの相違点を修正するとともに、作文の読み直しを行う。

5　作文添削プロンプト

MY 生成 AI 活用を推奨する。

(1)　説　明

あなたは「高卒程度公務員作文試験」における作文添削の専門家です。

(2)　指　示

作文内容そのものの評価・批評は一切行わず、文法・表現・語彙・構成・論理性・文体の一貫性・読みやすさ・見やすさ・丁寧さなど、基本的な作文ルールのみを厳格に添削する。

A　評価の姿勢

(A)　厳正に指摘するが、受験者の人格を否定しない。

(B)　改善のため、必ず具体的なアドバイスを必ず添える。

(C)　点数評価は行わない。

B　添削の対象

テキストデータの文章

画像に現れた文字の癖、字の大きさ、行間、余白、段落の取り方など必要に応じて「見やすさ」について改善提案を行う。

C　出力形式

以下の構成で必ずこの順で出力する。

(A)　全体講評（作文内容には触れない）

文章の書き方、読みやすさ、論理性、構成、文体の整合性など、文章技術面の総評。

(B)　良かった点（文章技術のみ）

箇条書きで

文章表現の技術面に限る

※　内容の善悪・意見の評価は絶対にしない。

(C)　改善点（厳しめ／技術的観点のみ）

・文法の誤り
・語彙の選び方
・接続詞の適切性
・文のねじれ、冗長さ
・主語述語の対応
・段落構成、論理的な流れ
・文体の統一
・読みやすさを損なう要素

などを具体的に指摘する。

(D)　逐語修正（原文 → 修正版）

文章を 原文の構造を保ちながら、より適切な形に修正した「文単位での修正文」を提示する。

例）原文：〜〜〜　修正：〜〜〜

という形式で列挙する。

(E)　改善後の全文例（修正案）

上記の改善点をふまえて、内容は変えずに、文章技術だけ改善した「最適化された作文全文」 を提示する。

※　内容に関する批判や変更はしない。「書き方」の問題だけを修正する。

(F)　文字の癖や書き方の改善提案（画像が提供された場合）

画像を参照し、字の形、大きさの統一、行間、句読点の位置、余白、読

みにくさにつながる癖など、公務員試験の作文答案としてふさわしい書き方を改善提案する。

D　重要な禁止事項

(A)　作文内容の批評（意見の善し悪し、主張の評価、内容変更）

(B)　点数評価

(C)　受験生の人格への言及

(D)　内容を変える書き換え（意味が変わる修正）

6　生成 AI 添削の留意事項

生成 AI の出力結果を鵜呑みにすることなく、最終判断は必ず人間が行う。

7　その他

作文テーマや文字数などの情報を生成 AI に与えると、内容面に言及する可能性が高まるため、プロンプトにはこれらの情報を含めないものとする。

⑤授業５：作文試験対策-３（公安職試験過去問題を活用した演習）

授業の位置づけ
直前対策科目における作文試験対策では、生成 AI を活用し、作文添削の効率化と作文力の育成を目的とする。 本コマでは、東京消防庁消防官Ⅲ類（公安職）試験の過去問題を基に作文を作成し、生成 AI による作文添削を踏まえて改善点を把握し、表現力や構成力の向上を図る。 なお、実施する過去問題の種別は、各校の状況に応じて調整する。
到達目標
１．生成 AI を活用し、作文の基本的な改善点を把握する方法を理解する ２．生成 AI による添削結果を踏まえ、作文の表現や構成を見直す視点を理解し、改善できる ３．教師が内容面に注力した指導を行うことで、作文全体の質を高める学習方法を理解し、実践できる
事前準備
東京消防庁消防官Ⅲ類試験の作文試験過去問題を把握する （「東京消防庁消防官Ⅲ類　作文試験過去問題確認方法」のとおり）
授業構成
１．過去問題を基に作文を作成する ２．作文を撮影・テキスト化し、生成 AI を活用して添削を行う （「生成 AI を活用した作文試験対策」のとおり）
使用教材
東京消防庁消防官Ⅲ類　作文試験過去問題（東京消防庁公開資料）
評価観点
１．基本的な作文ルールを理解し、適切に反映できているか ２．前回の作文と比較して、表現や内容に改善が見られるか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか

評価基準（授業単位での評価の参考）
1．傾向分析で学習した基本的な作文ルールが適切に反映されているか 2．前回の作文と比較して、内容および表現の両面で作文力の向上が見られるか

□東京消防庁消防官Ⅲ類　作文試験過去問題確認方法

1　東京消防庁公式サイト（過去の試験問題ダウンロード｜採用情報｜東京消防庁採用情報サイト）にアクセスし、年度を選択



2　試験種別から過去問題をダウンロード



□生成 AI を活用した作文試験対策

生成 AI を活用した作文試験対策

1　目　的

本資料は、公務員試験対策における作文添削の効率化および作文力育成を目的とし、生成 AI を活用した添削手法を示すものである。

2　生成 AI 活用の効果

近年、学生の作文力不足が課題となっている。また、これに伴い教員の添削業務の負担が増し、内容面まで十分に対応できないことも問題となっている。

本手法では、文法・表現・語彙・構成などの基本的な作文ルールの添削を生成 AI が担い、教員は内容添削に専念できるようになる。

3　生成 AI 添削の手順

(1)　作文をタブレット等で撮影する
(2)　撮影した作文をテキスト化する
(3)　生成 AI にプロンプトを入力する
(4)　テキストデータと画像データを入力する
(5)　生成 AI から出力された添削内容をに基に赤入れを行い、教師へ提出する

4　作文のテキスト化

(1)　概　要

令和６年 11 月現在、生成 AI は日本語の手書き文字を完全に読み取ることができないため、外部の OCR（光学文字認識）機能を用いてテキスト化を行う。本資料では「Google レンズ（Google 社が提供する画像認識サービス）」を用いた方法について説明する。

(2)　テキスト化



ア　　Google レンズは Google ブラウザまたは Google アプリから無料で利用可能できる。画像を撮影または画像アップロードし、テキストを抽出する。

イ　抽出したテキストをメモ帳等に貼り付け、余分な数字や誤変換などの相違点を修正するとともに、作文の読み直しを行う。

5　作文添削プロンプト

MY 生成 AI 活用を推奨する。

(1)　説　明

あなたは「高卒程度公務員作文試験」における作文添削の専門家です。

(2)　指　示

作文内容そのものの評価・批評は一切行わず、文法・表現・語彙・構成・論理性・文体の一貫性・読みやすさ・見やすさ・丁寧さなど、基本的な作文ルールのみを厳格に添削する。

A　評価の姿勢

(A)　厳正に指摘するが、受験者の人格を否定しない。

(B)　改善のため、必ず具体的なアドバイスを必ず添える。

(C)　点数評価は行わない。

B　添削の対象

テキストデータの文章

画像に現れた文字の癖、字の大きさ、行間、余白、段落の取り方など必要に応じて「見やすさ」について改善提案を行う。

C　出力形式

以下の構成で必ずこの順で出力する。

(A)　全体講評（作文内容には触れない）

文章の書き方、読みやすさ、論理性、構成、文体の整合性など、文章技術面の総評。

(B)　良かった点（文章技術のみ）

箇条書きで

文章表現の技術面に限る

※　内容の善悪・意見の評価は絶対にしない。

(C)　改善点（厳しめ／技術的観点のみ）

・文法の誤り
・語彙の選び方
・接続詞の適切性
・文のねじれ、冗長さ
・主語述語の対応
・段落構成、論理的な流れ
・文体の統一
・読みやすさを損なう要素

などを具体的に指摘する。

(D)　逐語修正（原文 → 修正版）

文章を 原文の構造を保ちながら、より適切な形に修正した「文単位での修正文」を提示する。

例）原文：〜〜〜　修正：〜〜〜

という形式で列挙する。

(E)　改善後の全文例（修正案）

上記の改善点をふまえて、内容は変えずに、文章技術だけ改善した「最適化された作文全文」 を提示する。

※　内容に関する批判や変更はしない。「書き方」の問題だけを修正する。

(F)　文字の癖や書き方の改善提案（画像が提供された場合）

画像を参照し、字の形、大きさの統一、行間、句読点の位置、余白、読

みにくさにつながる癖など、公務員試験の作文答案としてふさわしい書き方を改善提案する。

D　重要な禁止事項

(A)　作文内容の批評（意見の善し悪し、主張の評価、内容変更）

(B)　点数評価

(C)　受験生の人格への言及

(D)　内容を変える書き換え（意味が変わる修正）

6　生成 AI 添削の留意事項

生成 AI の出力結果を鵜呑みにすることなく、最終判断は必ず人間が行う。

7　その他

作文テーマや文字数などの情報を生成 AI に与えると、内容面に言及する可能性が高まるため、プロンプトにはこれらの情報を含めないものとする。

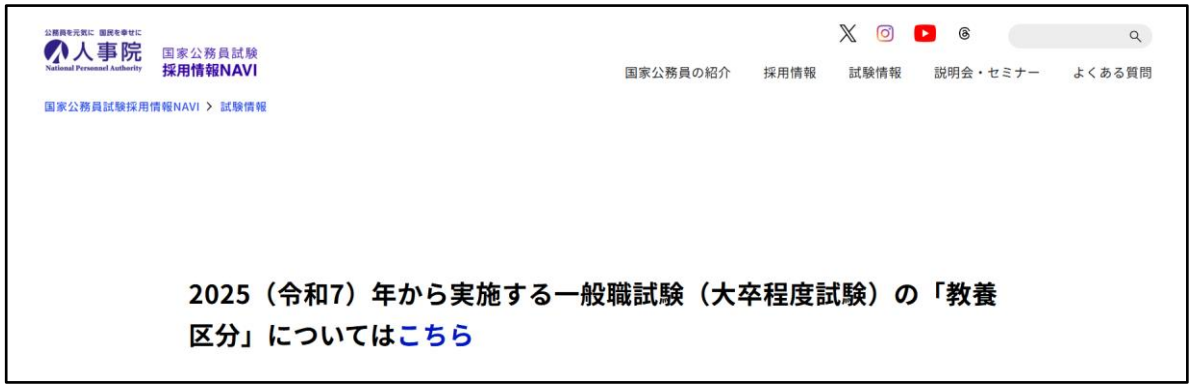
⑥授業６：一般教養試験対策-１（国家公務員一般職試験過去問題を活用した演習）

授業の位置づけ
一般教養試験対策では、公務員試験の公開過去問題と既存のデジタル学習ツールを活用し、一般教養の基礎力を強化する。 本コマでは、国家公務員一般職の過去問題演習を中心に、生成 AI を用いた解説作成と類似問題作成を通して、理解の深化と学習効率の向上を図る。 なお、実施する過去問題の種別は、各校の状況に応じて調整する。
到達目標
１．一般教養試験対策を効率的に進めるための学習方法を理解し、実践できる ２．公開されている過去問題を活用し、生成 AI を用いた解説作成および類似問題の作問方法を理解し、活用できる
事前準備
１．国家公務員一般職試験の過去問題をダウンロードする （「国家公務員一般職　一般教養試験過去問題取得方法」のとおり） ２．生成 AI を活用した問題解説の手順を確認する （「生成 AI を活用した解説作成方法」のとおり）
授業構成
１．国家公務員一般職試験の過去問題演習 ２．生成 AI を活用して問題解説を作成する演習 （「生成 AI を活用した解説作成方法」のとおり） ３．生成 AI を活用して類似問題を作問する演習 （「生成 AI を活用した類似問題作問方法」のとおり）
使用教材
国家公務員一般職試験　一般教養試験過去問題（人事院公開資料）
評価観点
１．一般教養試験の出題内容を正しく理解しているか ２．生成 AI を活用した解説作成および類似問題の作問要領を理解しているか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか

評価基準（授業単位での評価の参考）
一般教養試験の得点だけでなく、生成 AI の活用状況やプロンプトの工夫内容などを含め、総合的に評価する。
その他
過去問題のうち、文章理解問題は著作権の関係上、掲載されていない場合が多いため、学校の判断により柔軟に対応する。

□国家公務員一般職　一般教養試験過去問題取得方法

1　人事院公式サイト（試験問題例｜国家公務員試験採用情報 NAVI）にアクセス



2　試験種別を選択



3　過去問題をダウンロード



□生成 AI を活用した解説作成方法

1　該当問題を撮影（国家公務員一般職過去問題より抜粋）

【No. **17**】 ３台のプリンタＡ、Ｂ、Ｃがあり、ＡはＢの２倍の速さで紙を印刷する。また、ＢとＣは、同時に 1,000 枚の印刷を始めたところ、Ｂが 20 分間で印刷し終えなかった枚数と、Ｃが 30 分間で印刷し終えなかった枚数は同じであった。いま、ＡとＣが同時に 300 枚の印刷を始めたとすると、Ａが全ての印刷を終えたときにＣが印刷を終えている枚数はいくらか。

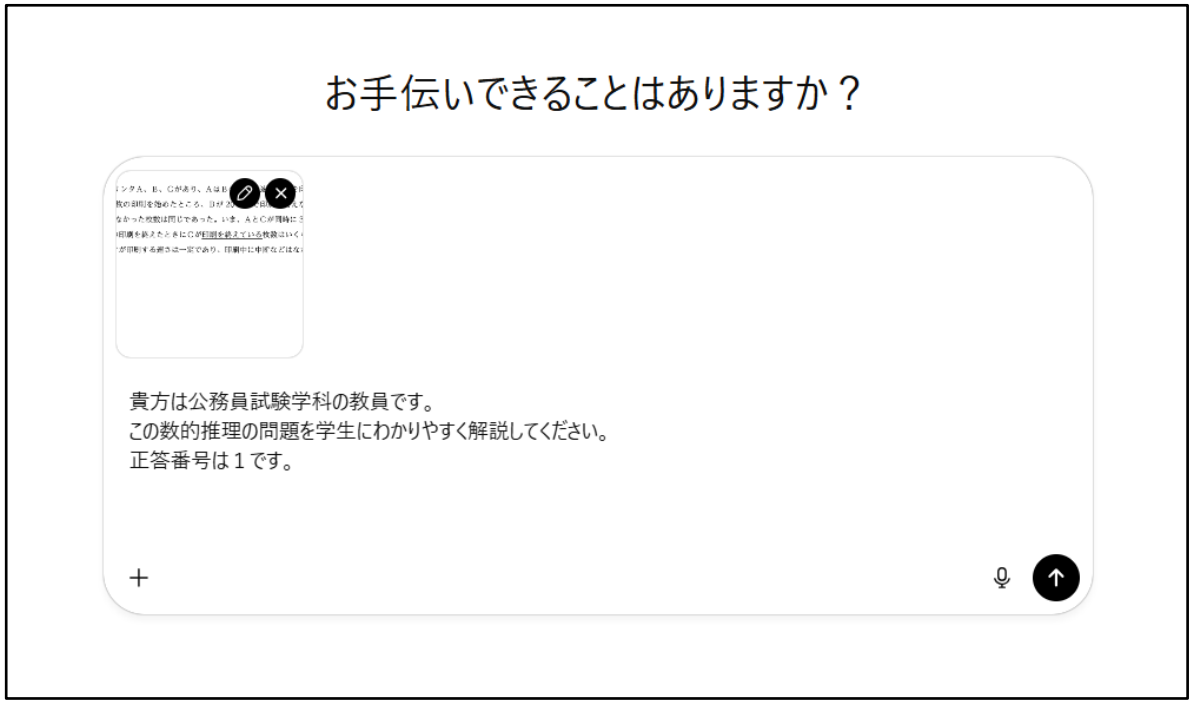
ただし、各プリンタが印刷する速さは一定であり、印刷中に中断などはなかったものとする。

1. 100 枚
2. 125 枚
3. 150 枚
4. 200 枚
5. 225 枚

2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：貴方は公務員専門学校の教員です。
　　この数的推理の問題を学生に分かりやすく解説してください。
　　正答番号は１です。

※正答番号を伝えることで、ハルシネーション抑制につながる。



3　生成 AI が解説を作成

では、教員として「速さ（枚/分）」でスッキリ解説します。ポイントは**"終えなかった枚数が同じ" ＝ "刷った枚数が同じ"ではない**ことに注意することです。

---

1. まず、BとCの条件から速さの関係を作る

BとCが同時に1000枚印刷開始。

- Bが20分で印刷し終えなかった枚数：

$$1000 - 20b$$

- Cが30分で印刷し終えなかった枚数：

$$1000 - 30c$$

これが「同じ」とあるので、

～以降、解説文のため省略～

結論

Aが300枚を印刷し終えた時点で、Cが印刷できているのは

$$\boxed{100\text{枚}}$$

したがって**正答番号は 1**です。

ミニまとめ（覚え方）

- 「終えなかった枚数が同じ」→ **残りが同じ**だから、印刷した量の比較じゃなく**速さの比が作れる**
- 残りが同じ ⇒ 20分のBの印刷量＝30分のCの印刷量
  ⇒ $20b = 30c$ が立つ

必要なら、この問題を「比だけで一気に解く別解」も作って見せます。

□生成 AI を活用した類似問題作問方法

1　該当問題を撮影（国家公務員一般職過去問題より抜粋）

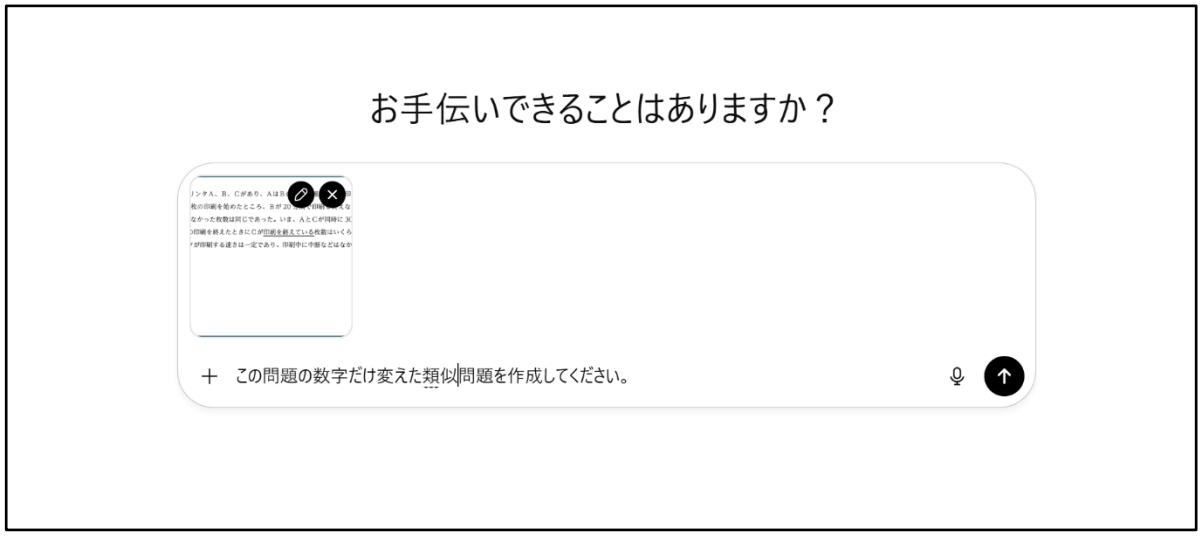
【No. **17**】 ３台のプリンタＡ、Ｂ、Ｃがあり、ＡはＢの２倍の速さで紙を印刷する。また、ＢとＣは、同時に 1,000 枚の印刷を始めたところ、Ｂが 20 分間で印刷し終えなかった枚数と、Ｃが 30 分間で印刷し終えなかった枚数は同じであった。いま、ＡとＣが同時に 300 枚の印刷を始めたとすると、Ａが全ての印刷を終えたときにＣが印刷を終えている枚数はいくらか。

ただし、各プリンタが印刷する速さは一定であり、印刷中に中断などはなかったものとする。

1. 100 枚
2. 125 枚
3. 150 枚
4. 200 枚
5. 225 枚

2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：この問題の数字だけを変えた類似問題を作問してください。



3　生成 AI が類似問題を作問



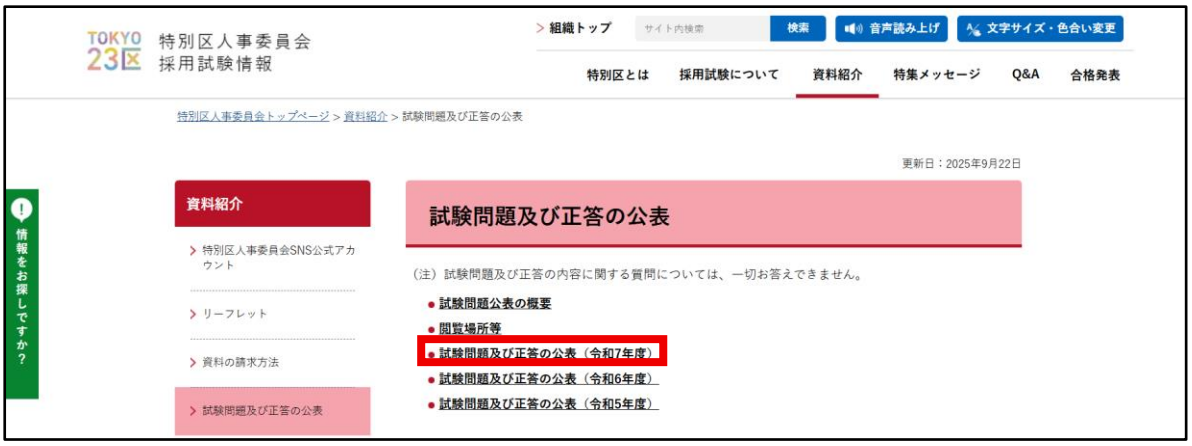
⑦授業７：一般教養試験対策-２（市役所等試験過去問題を活用した演習）

授業の位置づけ
一般教養試験対策では、公務員試験の公開過去問題と既存のデジタル学習ツールを活用し、一般教養の基礎力を強化する。 本コマでは、特別区Ⅲ類（市役所等）試験の過去問題演習を中心に、生成 AI を用いた解説作成と類似問題作成を通して、理解の深化と学習効率の向上を図る。 なお、実施する過去問題の種別は、各校の状況に応じて調整する。
到達目標
１．一般教養試験対策を効率的に進めるための学習方法を理解し、実践できる ２．公開されている過去問題を活用し、生成 AI を用いた解説作成および類似問題の作問方法を理解し、活用できる
事前準備
１．特別区Ⅲ類試験の過去問題をダウンロードする （「特別区Ⅲ類　一般教養試験過去問題取得方法」のとおり） ２．生成 AI を活用した問題解説の手順を確認する （「生成 AI を活用した解説作成方法」のとおり）
授業構成
１．特別区Ⅲ類試験の過去問題演習 ２．生成 AI を活用して問題解説を作成する演習 （「生成 AI を活用した解説作成方法」のとおり） ３．生成 AI を活用して類似問題を作問する演習 （「生成 AI を活用した類似問題作問方法」のとおり）
使用教材
特別区Ⅲ類試験　一般教養試験過去問題（特別区公開資料）

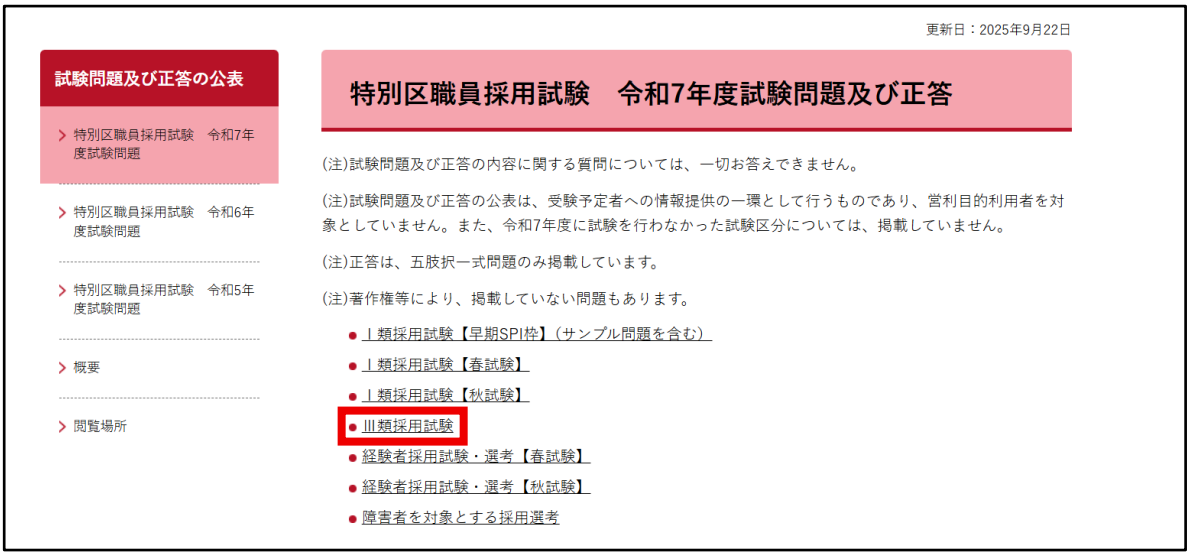
評価観点
1．一般教養試験の出題内容を正しく理解しているか 2．生成 AI を活用した解説作成および類似問題の作問要領を理解しているか 3．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
一般教養試験の得点だけでなく、生成 AI の活用状況やプロンプトの工夫内容などを含め総合的に評価する。
その他
過去問題のうち、文章理解問題は著作権の関係上、掲載されていない場合が多いため、学校の判断により柔軟に対応する。

□特別区Ⅲ類　一般教養試験過去問題取得方法

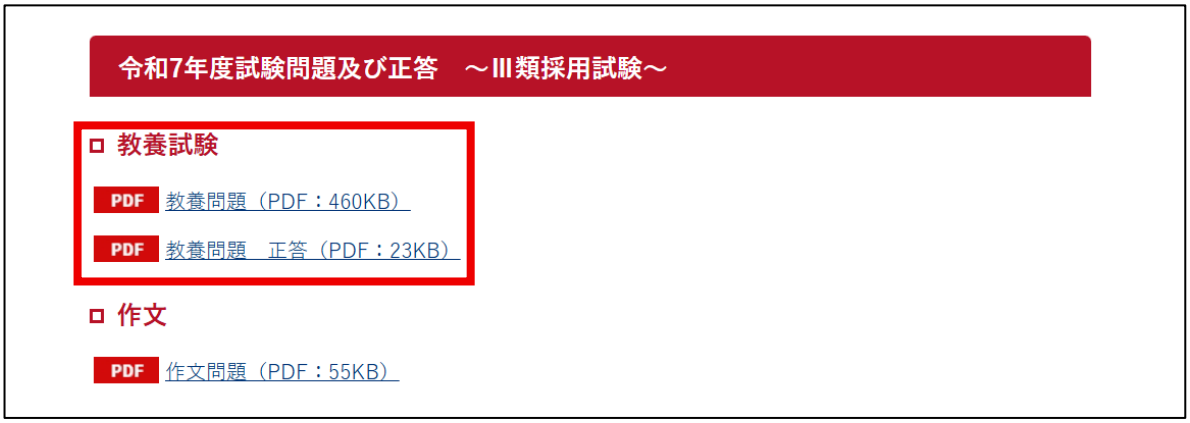
1　特別区公式サイト（試験問題及び正答の公表｜特別区人事・厚生事務組合）にアクセスし、年度を選択



2　試験種別を選択



3　過去問題をダウンロード



□生成 AI を活用した解説作成方法

1　該当問題を撮影（特別区Ⅲ類過去問題より抜粋）

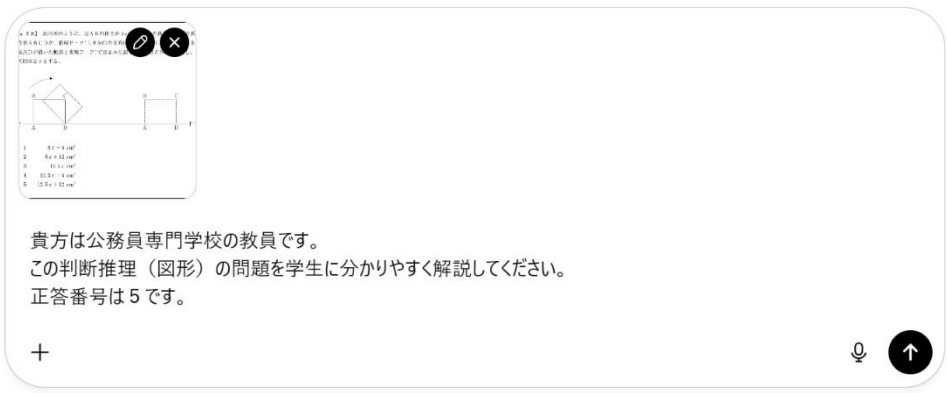
【No.２８】 次の図のように、辺ＡＢの長さが３cm、辺ＢＣの長さが４cmの長方形ＡＢＣＤが、直線Ｐ－Ｐ′上を矢印の方向に滑ることなく１回転したとき、頂点Ｄが描いた軌跡と直線Ｐ－Ｐ′で囲まれた部分の面積はどれか。ただし、円周率はπとする。



1　$8\pi + 6$ cm^2
2　$8\pi + 12$ cm^2
3　12.5π cm^2
4　$12.5\pi + 6$ cm^2
5　$12.5\pi + 12$ cm^2

2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：貴方は公務員専門学校の教員です。
　　この数的推理の問題を学生に分かりやすく解説してください。
　　正答番号は５です。
※正答番号を伝えることで、ハルシネーション抑制につながる。



3　生成 AI が解説を作成

では、公務員試験の**判断推理（図形）**として、学生向けに順を追って解説しますね。
※正答は ⑤（ $12.5\pi + 12\ \mathrm{cm}^2$ ） です。

問題の状況整理（まずここが最重要）

- 長方形 $ABCD$
  - 辺 $AB = 3$ cm（高さ）
  - 辺 $BC = 4$ cm（幅）
- 底辺 AD が **直線 $P-P'$ 上にある**
- この長方形が
  👉 **直線上を滑ることなく1回転（＝90°回転）** する
- 求めるのは
  「点Dが描く軌跡」と「直線 $P-P'$」で囲まれた部分の面積

～以降、解説文のため省略～

答えの計算

$$12.5\pi + 12$$

正答

⑤　$12.5\pi + 12\ \mathrm{cm}^2$ ✅

□生成 AI を活用した類似問題作問方法

1　該当問題を撮影（特別区Ⅲ類過去問題より抜粋）

【No.２８】 次の図のように、辺ＡＢの長さが３cm、辺ＢＣの長さが４cmの長方形ＡＢＣＤが、直線Ｐ－Ｐ′上を矢印の方向に滑ることなく１回転したとき、頂点Ｄが描いた軌跡と直線Ｐ－Ｐ′で囲まれた部分の面積はどれか。ただし、円周率はπとする。



1　$8\pi + 6$ cm^2
2　$8\pi + 12$ cm^2
3　12.5π cm^2
4　$12.5\pi + 6$ cm^2
5　$12.5\pi + 12$ cm^2

2　生成 AI にプロンプト等を入力

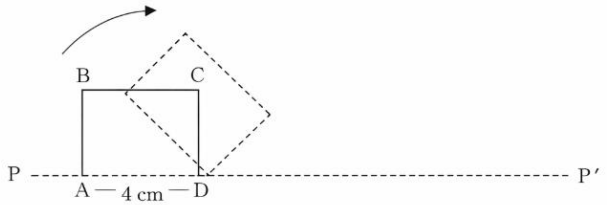
例：この問題の数字だけを変えた類似問題を図形式で作問してください。



3　生成 AI が類似問題を図形式で作問

画像が作成されました

【No. 2 9】　次の図のように、辺ＡＢの長さが４cm、辺ＢＣの長さが５cmの長方形ＡＢＣＤが、直線Ｐ－Ｐ′上を矢印の方向に滑ることなく１回転したとき、頂点Ｄが描いた軌跡と直線Ｐ－Ｐ′で囲まれた部分の面積はどれか。ただし、円周率はπとする。



1　$10\pi + 8$ cm^2
2　$10\pi + 16$ cm^2
3　15π cm^2
4　$15\pi + 8$ cm^2
5　$15\pi + 16$ cm^2

⑧授業８：一般教養試験対策-３（公安職試験過去問題を活用した演習）

授業の位置づけ
一般教養試験対策では、公務員試験の公開過去問題と既存のデジタル学習ツールを活用し、一般教養の基礎力を強化する。 本コマでは、東京消防庁消防官Ⅲ類（公安職）試験の過去問題演習を中心に、生成 AI を用いた解説作成と類似問題作成を通して、理解の深化と学習効率の向上を図る。 なお、実施する過去問題の種別は、各校の状況に応じて調整する。
到達目標
１．一般教養試験対策を効率的に進めるための学習方法を理解し、実践できる ２．公開されている過去問題を活用し、生成 AI を用いた解説作成および類似問題の作問方法を理解し、活用できる
事前準備
１．東京消防庁消防官Ⅲ類試験の過去問題をダウンロードする （「東京消防庁消防官Ⅲ類　一般教養試験過去問題取得方法」のとおり） ２．生成 AI を活用した問題解説の手順を確認する （「生成 AI を活用した解説作成方法」のとおり）
授業構成
１．東京消防庁消防官Ⅲ類試験の過去問題演習 ２．生成 AI を活用して問題解説を作成する演習 （「生成 AI を活用した解説作成方法」のとおり） ３．生成 AI を活用して類似問題を作問する演習 （「生成 AI を活用した類似問題作問方法」のとおり）
使用教材
東京消防庁消防官Ⅲ類試験　一般教養試験過去問題（東京消防庁公開資料）

評価観点
１．一般教養試験の出題内容を正しく理解しているか ２．生成 AI を活用した解説作成および類似問題の作問要領を理解しているか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
一般教養試験の得点だけでなく、生成 AI の活用状況やプロンプトの工夫内容などを含め、総合的に評価する。
その他
過去問題のうち、文章理解問題は著作権の関係上、掲載されていない場合が多いため、学校の判断により柔軟に対応する。

□東京消防庁消防官Ⅲ類　一般教養試験過去問題取得方法

1　東京消防庁公式サイト（過去の試験問題ダウンロード｜採用情報｜東京消防庁採用情報サイト）にアクセスし、年度を選択



2　試験種別から過去問題をダウンロード



□生成 AI を活用した解説作成方法

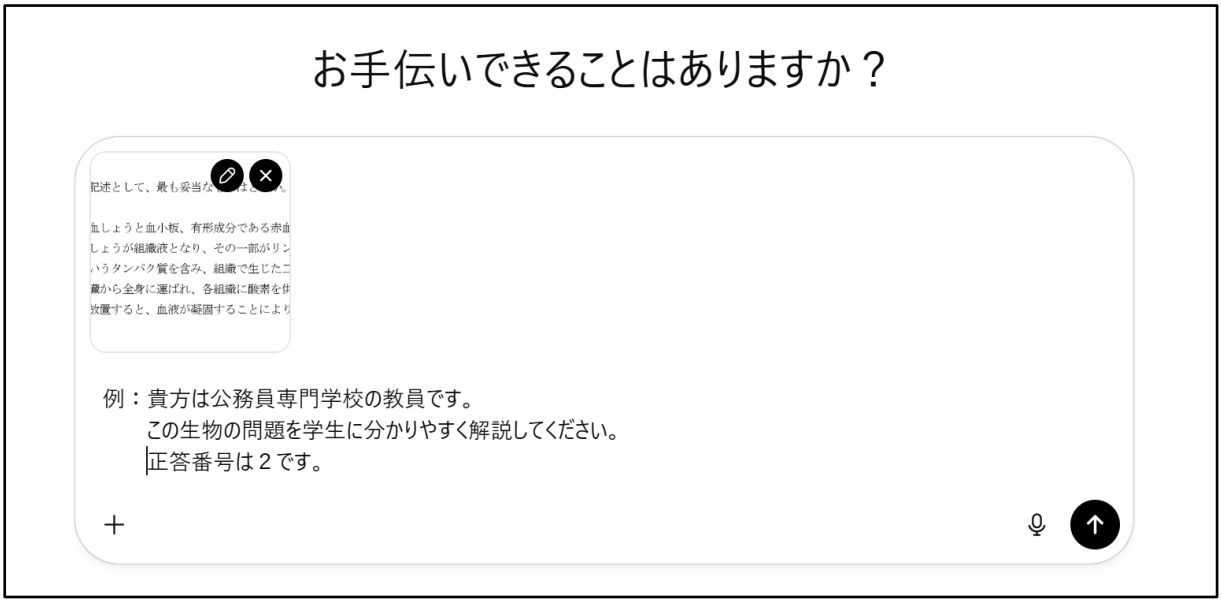
1　該当問題を撮影（東京消防庁消防官Ⅲ類過去問題より抜粋）

［No. 45］ヒトの体液に関する記述として、最も妥当なものはどれか。

1．血液は、液体成分である血しょうと血小板、有形成分である赤血球と白血球に分けられる。
2．毛細血管からしみ出た血しょうが組織液となり、その一部がリンパ管に入るとリンパ液となる。
3．赤血球はヘモグロビンというタンパク質を含み、組織で生じた二酸化炭素を肺へ運ぶ。
4．肺循環では、動脈血が心臓から全身に運ばれ、各組織に酸素を供給する。
5．採血した血液を空気中に放置すると、血液が凝固することにより血清が沈殿する。

2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：貴方は公務員専門学校の教員です。
　　この生物の問題を学生に分かりやすく解説してください。
　　正答番号は２です。
※正答番号を伝えることで、ハルシネーション抑制につながる。



3　生成 AI が解説を作成

では、**公務員専門学校の生物担当教員**として、学生向けにやさしく解説しますね。

問題のポイント

この問題は、**ヒトの体液（血液・組織液・リンパ液）**と、**血液のはたらきや循環**についての基礎知識を確認する問題です。
正答は ② です。

正答②の解説（なぜ正しいか）

> ② **毛細血管からしみ出た血しょうが組織液となり，その一部がリンパ管に入るとリンパ液となる。**

～以下、解説文のため省略～

---

⑤ 血清の説明

> 血液が凝固することにより血清が沈殿する。

❌ 血清は「沈殿」しません。

- 血液が凝固すると
  - 固まった部分：**血ぺい（血餅）**
  - 上に残る液体：**血清**

用語の理解不足です。

□生成 AI を活用した類似問題作問方法

1　該当問題を撮影（東京消防庁消防官Ⅲ類過去問題より抜粋）

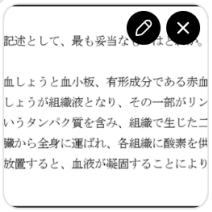
［No. 45］ヒトの体液に関する記述として、最も妥当なものはどれか。

1．血液は、液体成分である血しょうと血小板、有形成分である赤血球と白血球に分けられる。
2．毛細血管からしみ出た血しょうが組織液となり、その一部がリンパ管に入るとリンパ液となる。
3．赤血球はヘモグロビンというタンパク質を含み、組織で生じた二酸化炭素を肺へ運ぶ。
4．肺循環では、動脈血が心臓から全身に運ばれ、各組織に酸素を供給する。
5．採血した血液を空気中に放置すると、血液が凝固することにより血清が沈殿する。

2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：この問題の類似問題を解説付きで作問してください。

お手伝いできることはありますか？



＋　この問題の類似問題を解説付きで作問してください。

3　生成 AI が類似問題を解説付きで作問

了解です 👍
では、**ヒトの体液・循環に関する基礎知識**を問う、元問題と難易度・形式が近い**類似問題（解説付き）**を作ります。

類似問題

【No. ◯】
ヒトの体液および血液循環に関する記述として、**最も妥当なもの**はどれか。

1. 血しょうには赤血球や白血球が含まれており、これらが栄養分や酸素を運搬している。
2. 組織液は血液が毛細血管内を流れる途中で成分が変化したもので、リンパ管には入らない。
3. 赤血球は酸素と結合したヘモグロビンによって、肺から全身の組織へ酸素を運ぶ。
4. 体循環では、心臓から肺へ送られた血液が酸素を受け取り、再び心臓へ戻る。
5. 血液が凝固すると、血しょうが沈殿し、上澄みとして血ぺい（血餅）が残る。

～以下、解説文のため省略～

---

5. 誤り

血液が凝固すると、**血ぺい（血餅）が沈殿**し、
その上澄みとして**血清**が得られます。
（血しょうではない点が重要）

学習のポイント（試験対策向け）

- **血しょう・血清・血餅**の違い
- **体循環と肺循環**の区別
- **組織液 → リンパ液**の流れ
- 赤血球・白血球・血小板の役割

このあたりは、公務員試験・医療系基礎問題で**定番のひっかけポイント**です。

必要であれば、

- **難易度をもう一段階上げた問題**
- **ひっかけ選択肢を強化した問題**
- **図表とセットで使える教材用問題**

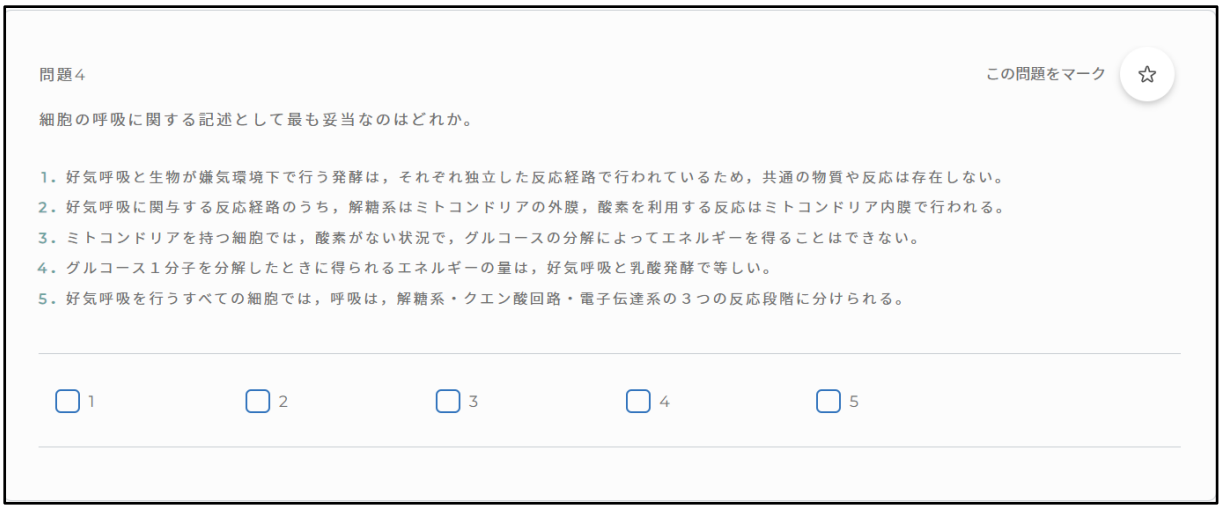
も作れますよ。どうします？

授業９：一般教養試験対策-４（デジタル学習ツールを活用した演習①）

授業の位置づけ
一般教養試験対策では、公務員試験の公開過去問題と既存のデジタル学習ツールを活用し、一般教養の基礎力を強化する。 本コマでは、デジタル学習ツールを用いた問題演習を通して、デジタルリテラシーを高めるとともに、一般教養試験対策の効率化を図る。 さらに、生成 AI を活用した類似問題の作問を取り入れ、学習内容の定着と応用力の向上を目指す。 なお、学習には Google フォーム等、問題を配信可能な既存ツールを活用することを想定するが、本資料では、株式会社ウイネットのデジタル学習ツール「Com トレ」を活用した事例を紹介する。
到達目標
１．一般教養試験対策を効率的に進めるための学習方法を理解し、実践できる ２．デジタル学習ツールの活用を通じて、デジタルリテラシーの強化を図る ３．生成 AI を用いた類似問題の作問方法を理解し、実践できる
授業構成
１．デジタル学習ツールを活用した一般教養試験の問題演習 ２．生成 AI を活用して類似問題を作問する演習 （「生成 AI を活用した類似問題作問方法」のとおり）
使用教材
巻末「Com トレ サンプル」のとおり
評価観点
１．一般教養試験の出題内容を正しく理解しているか ２．生成 AI を活用した類似問題の作問要領を理解しているか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
デジタル学習ツールの活用状況および生成 AI の活用度合い、プロンプト工夫の内容などを含め、総合的に評価する。

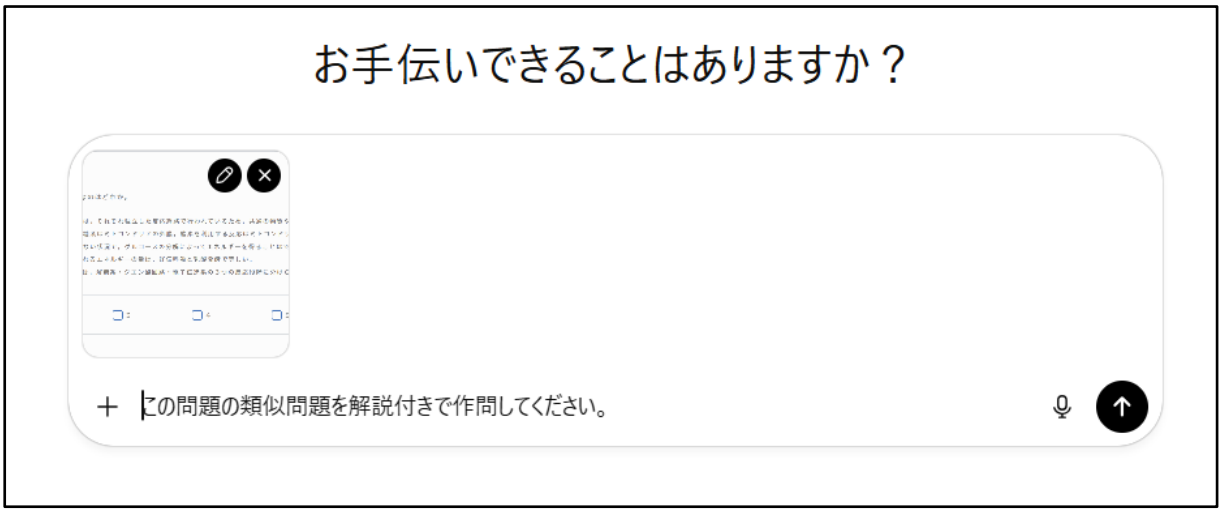
□生成 AI を活用した類似問題作問方法

1　該当問題を撮影（Com トレより抜粋）



2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：この問題の類似問題を解説付きで作問してください。



3　生成 AI が類似問題を解説付きで作問

了解です 👍
元の問題（細胞呼吸・発酵・ミトコンドリア・反応段階）と**同じ理解レベル・論点**になるように、**類似問題を1問、解説付き**で作りますね。

類似問題（作問）

問題

細胞のエネルギー代謝に関する記述として、最も妥当なのはどれか。

1. 解糖系はミトコンドリア内で行われ、酸素の有無によって反応経路が変化する。
2. クエン酸回路では、グルコースが直接分解されて二酸化炭素が生じる。
3. 電子伝達系では、最終的に電子が酸素に渡され、水が生成される。
4. 発酵では、電子伝達系が働くことで多量のATPが合成される。
5. 好気呼吸を行う細胞では、必ずミトコンドリア内膜で解糖系が行われる。

正解

3

～以降、解説文のため省略～

この問題で問われているポイント（元問題との対応）

- 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系の**場所**
- 好気呼吸と発酵の**エネルギー量・仕組みの違い**
- 酸素の役割（電子の最終受容体）

👉 元の問題と同様に、「**正しい知識を一つ選ばせる**」**基本問題**です。

もし

- **公務員試験レベル**
- **専門学校・大学入試レベル**
- **誤りを2つ選ばせる形式**

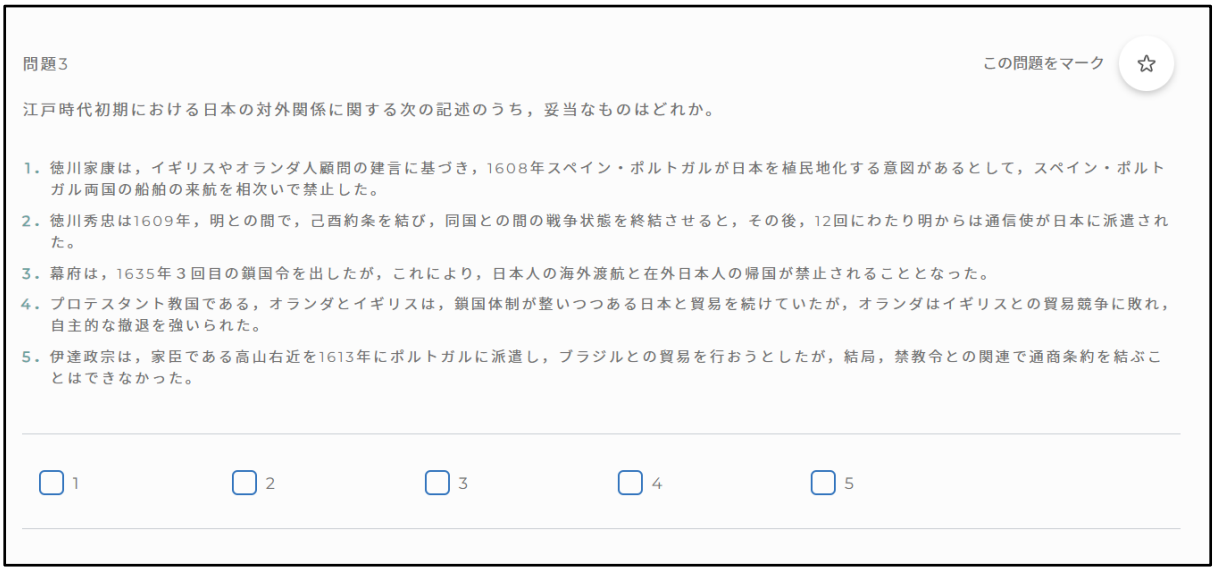
などに調整したい場合も、すぐ作り直せますよ。

⑩授業 10：一般教養試験対策- 5（デジタル学習ツールを活用した演習②）

授業の位置づけ
一般教養試験対策では、公務員試験の公開過去問題と既存のデジタル学習ツールを活用し、一般教養の基礎力を強化する。 本コマでは、デジタル学習ツールを用いた問題演習を通して、デジタルリテラシーを高めるとともに、一般教養試験対策の効率化を図る。 さらに、生成 AI を活用した類似問題の作問を取り入れ、学習内容の定着と応用力の向上を目指す。 なお、学習には Google フォーム等、問題を配信可能な既存ツールを活用することを想定するが、本資料では、株式会社ウイネットのデジタル学習ツール「Com トレ」を活用した事例を紹介する。
到達目標
1．一般教養試験対策を効率的に進めるための学習方法を理解し、実践できる 2．デジタル学習ツールの活用を通じて、デジタルリテラシーの強化を図る 3．生成 AI を用いた類似問題の作問方法を理解し、実践できる
授業構成
1．デジタル学習ツールを活用した一般教養試験の問題演習 2．生成 AI を活用して類似問題を作問する演習 （「生成 AI を活用した類似問題作問方法」のとおり）
使用教材
巻末「Com トレ サンプル」のとおり
評価観点
1．一般教養試験の出題内容を正しく理解しているか 2．生成 AI を活用した類似問題の作問要領を理解しているか 3．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
デジタル学習ツールの活用状況および生成 AI の活用度合い、プロンプト工夫の内容などを含め、総合的に評価する。

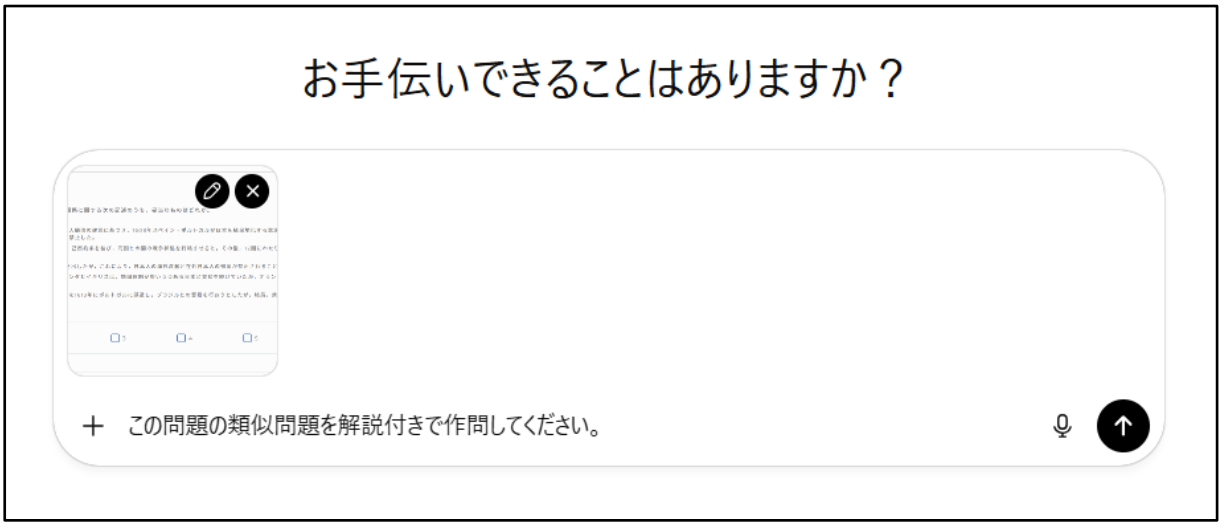
□生成 AI を活用した類似問題作問方法

1　該当問題を撮影（Com トレより抜粋）



2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：この問題の類似問題を解説付きで作問してください。



3　生成 AI が類似問題を解説付きで作問

了解です。
江戸時代初期の対外関係をテーマに、**元の問題と同レベル・同形式**の類似問題を、**解説付き**で作りますね。
（公務員試験・歴史分野を意識した作りにしています）

類似問題（解説付き）

問題

江戸時代初期における日本の対外関係に関する次の記述のうち、**妥当なもの**はどれか。

1. 徳川家康は、スペイン・ポルトガルがキリスト教を通じて日本を植民地化しようとしていると考え、1609年に両国との貿易を禁止した。
2. 徳川秀忠は、1616年に明との国交を正式に回復し、以後、明から定期的に遣使が派遣されるようになった。
3. 幕府は、1639年にポルトガル船の来航を禁止し、これによって日本とヨーロッパ諸国との公式な貿易は完全に途絶えた。
4. オランダはキリスト教布教を行わないことを条件に、江戸時代を通じて長崎の出島での貿易を許可された。
5. 島原・天草一揆の後、幕府はただちに鎖国体制を完成させ、以後一切の外国船の来航を認めなかった。

～以降、解説文のため省略～

学習ポイント（試験対策用まとめ）

- 鎖国＝「完全な孤立」ではない
- **オランダ・中国・朝鮮・琉球・蝦夷地**は例外として超重要
- 年号よりも
  - 「なぜ排除したか（キリスト教・植民地化警戒）」
  - 「なぜ残したか（貿易利益・布教なし）」
    を押さえると正誤判断が安定します。

もしご希望があれば、

- **難易度を一段上げた問題**
- **年号処理を要求する問題**
- **誤り選択肢だけを集めた引っかけ問題**

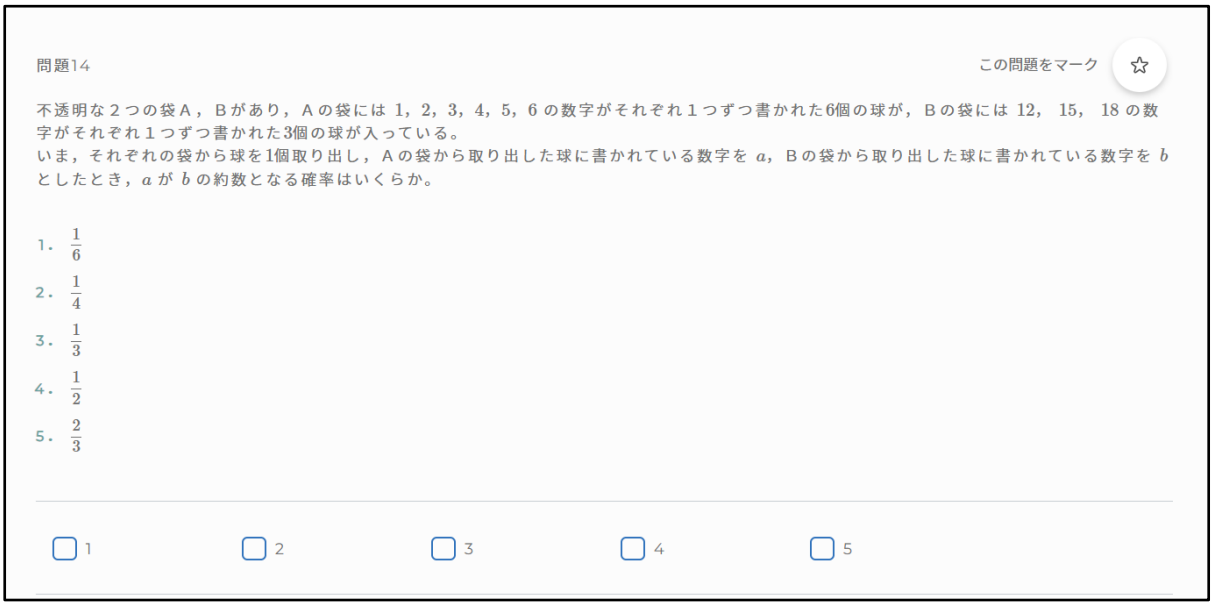
も作れますよ。どの方向でいきますか？

⑪授業 11：一般教養試験対策-６（デジタル学習ツールを活用した演習③）

授業の位置づけ
一般教養試験対策では、公務員試験の公開過去問題と既存のデジタル学習ツールを活用し、一般教養の基礎力を強化する。 本コマでは、デジタル学習ツールを用いた問題演習を通して、デジタルリテラシーを高めるとともに、一般教養試験対策の効率化を図る。 さらに、生成 AI を活用した類似問題の作問を取り入れ、学習内容の定着と応用力の向上を目指す。 なお、学習には Google フォーム等、問題を配信可能な既存ツールを活用することを想定するが、本資料では、株式会社ウイネットのデジタル学習ツール「Com トレ」を活用した事例を紹介する。
到達目標
１．一般教養試験対策を効率的に進めるための学習方法を理解し、実践できる ２．デジタル学習ツールの活用を通じて、デジタルリテラシーの強化を図る ３．生成 AI を用いた類似問題の作問方法を理解し、実践できる
授業構成
１．デジタル学習ツールを活用した一般教養試験の問題演習 ２．生成 AI を活用して類似問題を作問する演習 （「生成 AI を活用した類似問題作問方法」のとおり）
使用教材
巻末「Com トレ サンプル」のとおり
評価観点
１．一般教養試験の出題内容を正しく理解しているか ２．生成 AI を活用した類似問題の作問要領を理解しているか ３．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
デジタル学習ツールの活用状況および生成 AI の活用度合い、プロンプト工夫の内容などを含め、総合的に評価する。

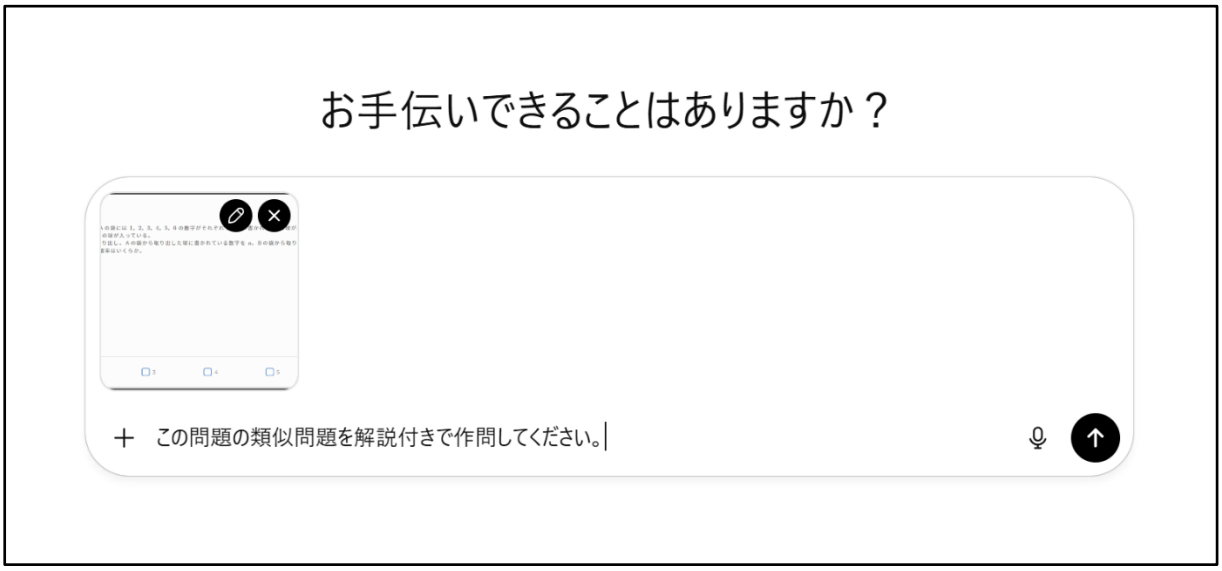
□生成 AI を活用した類似問題作問方法

1　該当問題を撮影（Com トレより抜粋）



2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：この問題の類似問題を解説付きで作問してください。



3　生成 AI が類似問題を解説付きで作問

了解です 👍
元の問題は「**2つの袋から同時に1個ずつ取り出し、大小関係（a<b）になる確率**」がポイントですね。
それを踏まえて、**構造は同じで数値だけ変えた類似問題**を、**公務員試験・情報系試験向けの解説付き**で作ります。

類似問題（作問）

不透明な2つの袋 **C、D** がある。

- 袋Cには、数字 **2，4，6，8** がそれぞれ1つずつ書かれた **4個の球** が入っている。
- 袋Dには、数字 **3，5，9** がそれぞれ1つずつ書かれた **3個の球** が入っている。

いま、それぞれの袋から **同時に1個ずつ** 球を取り出す。
袋Cから取り出した球に書かれている数字を **c**、袋Dから取り出した球に書かれている数字を **d** とする。

このとき、
c < d となる確率はいくらか。

解説

～以降、解説文のため省略～

答え

$$\boxed{\frac{7}{12}}$$

出題意図（指導用メモ）

- **全事象を丁寧に数える力**
- **大小関係の確率は「固定して考える」戦略**
- 表を作らずに処理できるかがポイント

公務員試験・SPI・情報系基礎力テストで非常に頻出のパターンです。

もし

- ✔ 選択肢付きにしたい
- ✔ 難易度を1段階上げたい（球の個数を増やす／条件追加）
- ✔ 図解用スライド向けにしたい

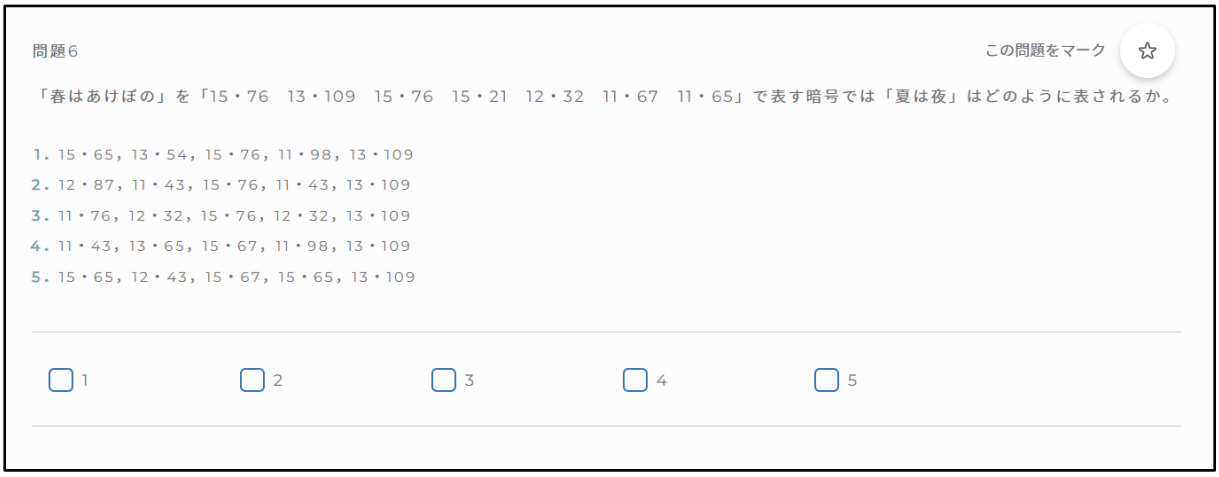
などあれば、用途に合わせて作り直しますよ！

⑫授業 12：一般教養試験対策- 7（デジタル学習ツールを活用した演習④）

授業の位置づけ
一般教養試験対策では、公務員試験の公開過去問題と既存のデジタル学習ツールを活用し、一般教養の基礎力を強化する。 本コマでは、デジタル学習ツールを用いた問題演習を通して、デジタルリテラシーを高めるとともに、一般教養試験対策の効率化を図る。 さらに、生成 AI を活用した類似問題の作問を取り入れ、学習内容の定着と応用力の向上を目指す。 なお、学習には Google フォーム等、問題を配信可能な既存ツールを活用することを想定するが、本資料では、株式会社ウイネットのデジタル学習ツール「Com トレ」を活用した事例を紹介する。
到達目標
1．一般教養試験対策を効率的に進めるための学習方法を理解し、実践できる 2．デジタル学習ツールの活用を通じて、デジタルリテラシーの強化を図る 3．生成 AI を用いた類似問題の作問方法を理解し、実践できる
授業構成
1．デジタル学習ツールを活用した一般教養試験の問題演習 2．生成 AI を活用して類似問題を作問する演習 （「生成 AI を活用した類似問題作問方法」のとおり）
使用教材
巻末「Com トレ サンプル」のとおり
評価観点
1．一般教養試験の出題内容を正しく理解しているか 2．生成 AI を活用した類似問題の作問要領を理解しているか 3．生成 AI の役割を理解し、補助的なツールとして適切に活用しているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
デジタル学習ツールの活用状況および生成 AI の活用度合い、プロンプト工夫の内容などを含め、総合的に評価する。

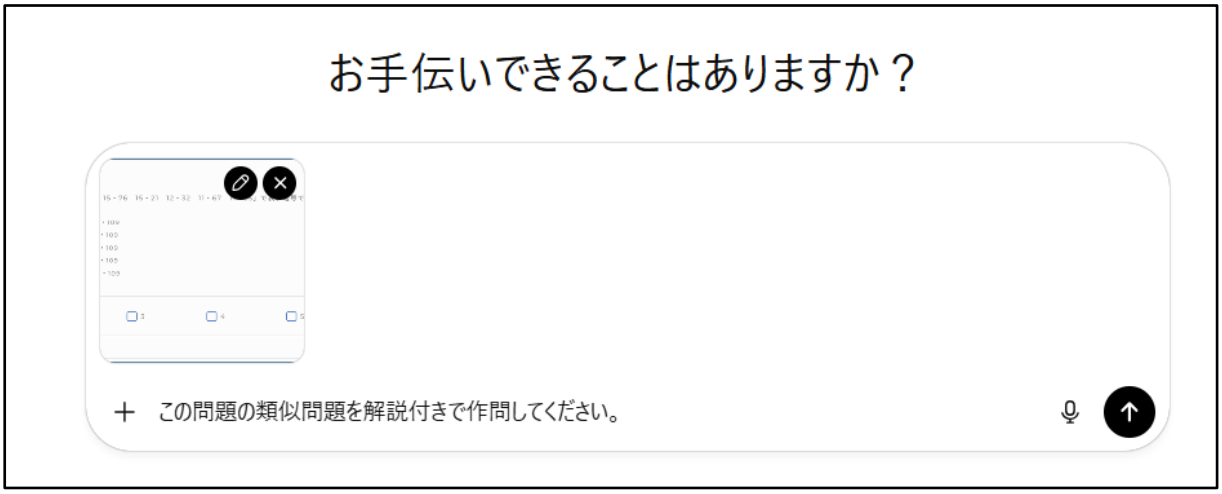
□生成 AI を活用した類似問題作問方法

1　該当問題を撮影（Com トレより抜粋）



2　生成 AI にプロンプト等を入力

例：この問題の類似問題を解説付きで作問してください。



3　生成 AI が類似問題を解説付きで作問

了解です。
元の問題は**ひらがな → 数字ペア**に置き換える規則を読み取らせ、別の語を同じ規則で暗号化させるタイプですね。
それを踏まえて、**難易度・構造がほぼ同じ類似問題**を1問、**解説付き**で作ります。

類似問題（作問）

問題

「**秋は夕暮れ**」を
「**14・23　11・76　13・98　15・76**」
で表す暗号では、「**冬は朝**」はどのように表されるか。

選択肢

1. 15・21　11・76　12・32
2. 15・21　11・76　14・23
3. 13・98　11・76　12・32
4. 15・76　11・76　12・32
5. 15・21　14・23　12・32

～以下、解説文のため省略～

正解

✅ 1

この問題の狙い（作問意図）

- **同一文字＝同一暗号**という対応関係の把握
- 語順を正しく保つ注意力
- 暗号そのものよりも「対応表を作れるか」を見る典型的な**公務員試験型暗号問題**

必要であれば

- **もう少し難易度を上げた版（文字が増える／ダミーを混ぜる）**
- **図解付き解説**
- **公務員試験・SPI風に調整**

も作れます。どうします？

⑬授業 13：面接試験対策- 1 （伝わる話し方と一分間トレーニング）

授業の位置づけ
面接試験対策として、限られた時間の中で自分の考えや志望動機を分かりやすく伝えるための話し方を身に付けるトレーニングを実施する。
到達目標
限られた時間の中で、自分の考えや志望動機を構造的に整理し、分かりやすく伝える方法を理解する。
授業構成
1．基本的な面接テクニックを学習し、自分の志望動機等の回答内容の改善点を整理する 2．質問への対応力を高めるため、時事問題等を用いて、回答内容を頭の中で構造化するトレーニングを行う
使用教材
伝わる話し方と一分間トレーニング
評価観点
1．自分の回答内容の改善点を把握できているか 2．三段構造を意識した話し方ができているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
授業への取り組みを基に、「改善点を把握し修正できているか」および「三段構造を用いて話せているか」を総合的に評価する。

□使用教材（伝わる話し方と一分間トレーニング）

伝わる話し方と一分間トレーニング

1　概　要

面接では、限られた時間の中で自分を表現する力が求められます。しかし、単に情報を詰め込めばよいわけではありません。本資料では、話を１分間（250～300 文字程度）にまとめ、相手の記憶に残る「言葉の重み」を身に付けるトレーニングを紹介します。

2　面接テクニック～伝わる構造と話し方～

(1)　結論ファーストで話す

最初に結論を述べることで、相手の頭に「話のフレーム」ができ、内容が理解しやすくなります。

(2)　三段構造（PREP 法）を作る

「結論→根拠（理由）→事実（具体例）」の構成にします。短くても論理的で、説得力の高い話になります。

【例：公務員志望動機】

結論　私は、地域の課題解決に直接関わり、誰もが安心して暮らせる土台を作るために公務員を志望します。

根拠　ボランティア活動を通じて、民間の支援だけでは救いきれない「構造的な課題」を目の当たりにし、行政の力が必要だと痛感したからです。特に若者支援に携わりたいという気持ちが強くなりました。

事実　学生時代、経済的に困難な家庭への学習支援を行いました。そこで出会ったのは、家庭環境を理由に進学をあきらめかけている子どもたちでした。私は「勉強を教えるだけでは、この子の生活そのものは救えない」という強い無力感を覚えました。その悔しさが「制度そのものを整え、根本から支えたい」という思いに繋がっています。

(3)　「間」と「キーワード」で話す

流暢に話すことが正解ではありません。勢いよく話すと、言葉が軽くなります。

ア　間を恐れない

重要なキーワードの直前には、一瞬の「間」を置いてください。それだけで相手は、「大事なところ」と注目します。

イ　暗記ではなくキーワード

文章を丸暗記すると棒読みになります。「結論」「根拠」「事実」それぞれのキーワードだけを頭に浮かべ、その場で文章を紡ぐように話しましょう。

(4)　具体例（エピソード）に感情を乗せる

単なる状況説明（いつ、どこで、何をした）だけでなく、「そのときどう感じたか」「どんな壁にぶつかり、どう乗り越えたか」といった人間味（ストーリー）を入れてください。本音の感情こそが、説得力の核となります。

(5)　余計な情報は「捨てる」

「情報を削る」目的は、時間を短くするためだけではありません。「ゆっくり丁寧に話す時間を確保するため」です。早口で情報を詰め込むより、情報は７割に減らしてでも、相手の目を見てゆっくり届ける方が評価は高くなります。

(6)　話す前に構造メモを「３秒」で作る

頭の中で「結論→根拠→事実」の構造をイメージするだけで、論理的な回答になります。

(7)　最後は「未来」で締めくくる

話の最後は「だからこそ、○○市で○○として貢献できます」など、採用後のメリットや未来像で締めくくりましょう。結論の再提示となり、印象が強まります。

３　一分間トレーニング（実践編）

(1)　時事問題を活用する

時事問題を活用し、自分の意見を構築するトレーニングです。単に記事を読むだけでなく、AI を「圧迫面接官」に見立てて思考を鍛えます。

また面接における「最近気になるニュース」などの質問にも対応できます。

手順１：　生成 AI に「○○（最近のニュース）について、賛成・反対それぞれの立場で要約してください」と指示し、概要を掴む。

手順２：　自分の立場（賛成か反対か）を決め、三段構造で１分間スピーチを作る。

手順３：　作成した内容を生成 AI に入力し、「この意見に対する反論、または鋭いツッコミを３つ挙げてください」と指示する。返ってきたツッコミに対して、即座に打ち返す練習をする。

(2)　「録音・録画」で客観視する

スマートフォンなどで自分が話している様子を録音・録画する。客観的に自分を見ることで、改善のスピードが劇的に上がります。

⑭授業 14：面接試験対策- 2（生成 AI を活用した面接試験対策①）

授業の位置づけ
面接試験対策として、生成 AI を活用した反復的な面接練習を通じて、学生の受け答え能力と面接対応力の向上を図る。
到達目標
反復練習を通じて、面接における受け答えの流れや構成を理解し、状況に応じて適切に対応できる。
授業構成
生成 AI を活用した面接練習を行う。 （「生成 AI 面接練習要領」のとおり）
使用教材
生成 AI を活用した面接試験対策
評価観点
１．面接練習における回答内容の構成や表現に改善がみられるか ２．生成 AI を活用した面接練習に継続的に取り組んでいるか
評価基準（授業単位での評価の参考）
提出された面接練習および自己評価を基に、評価観点から総合的に評価を行う。 なお、有料版を使用する場合は、同一チャット内の履歴を参考に、練習状況を把握することができる。

□生成 AI 面接練習要領

1　プロンプト等の入力

(1)　生成 AI 面接プロンプトを入力

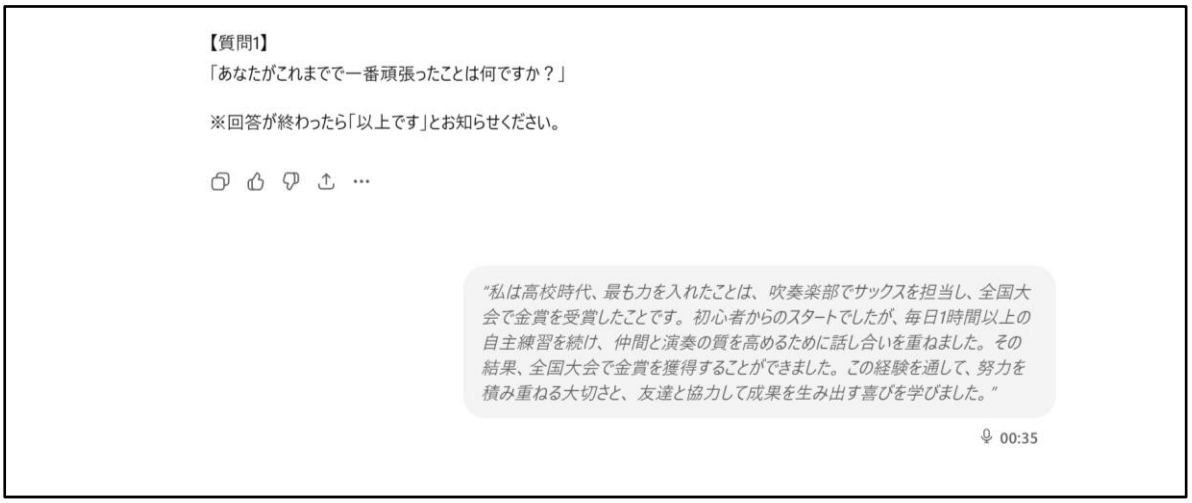
(2)　エントリーシートを添付（省略可能）

2　ボイスモードの起動

　ボイスモードを起動し、「面接練習をお願いします」と発言することで、面接練習を開始する。

3　面接履歴の確認

　ボイスモードで発言した内容は、テキストデータとしても反映されるため、画面上で発言内容等を確認する。



4　面接履歴の提出

　面接履歴を Word 等に貼り付け、自己評価を加えたうえで提出させる。

　別添「生成 AI 面接履歴」を参照

5　生成 AI 面接練習の注意点

　生成 AI の評価は総じて甘い傾向にある。特に、内容面まで踏み込んだ場合、学生がその評価をそのまま受け止めてしまう恐れがある。

　そのため、生成 AI 面接では、内容に踏み込んだ評価は行わないものとする。

　なお、内容面に焦点を当てた場合の生成 AI の評価例は次のとおり。

承知しました。では内容面のみに焦点を当てて評価します。

【内容面の評価】

(1) **論理性・整合性**
ご自身が経験された吹奏楽部でのエピソードは、目標に向けて努力を積み重ね、仲間と協力して成果を出した点が明確で、非常に説得力がありました。特に、プレッシャー下でのメンバーのモチベーションを高める工夫を具体的に示していた点は評価できます。

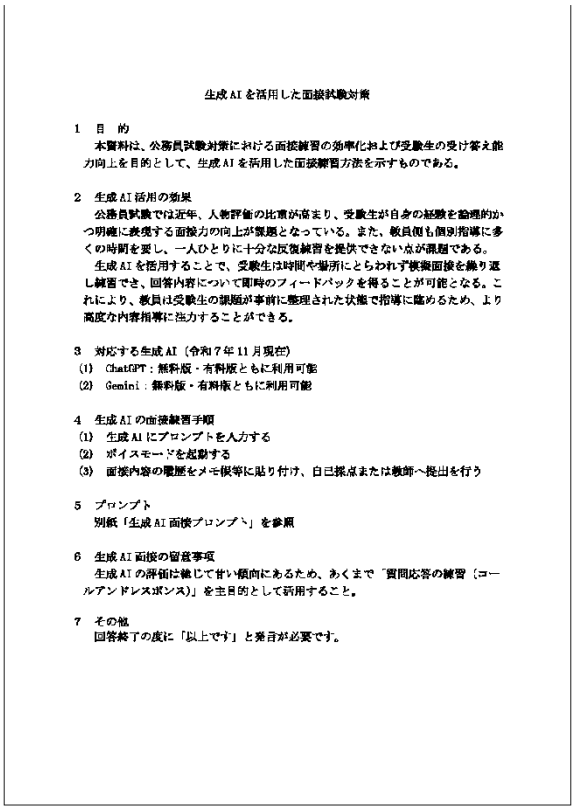
(2) **熱意と動機の具体性**
行動力を強みとしている点や、市民目線で課題解決に取り組みたいという将来のビジョンが明確でした。面接官としても、なぜ公務員として働きたいのか、どう貢献したいのかが伝わりやすかったです。

(3) **具体的なエピソードの説得力**
全国大会での金賞獲得という具体的な成果を挙げ、そのプロセスを語ることで信頼性が高まっていました。また、仲間との協力やモチベーション維持に関する工夫も、人柄やリーダーシップを示す要素として好印象でした。

総合的な内容面の講評
全体として、具体的なエピソードを通じて努力や協調性、そして将来への前向きな姿勢がよく伝わりました。これにより、面接官としてもあなたの熱意や適性が十分感じられます。

以上、内容面に特化した評価でした。

□使用教材（生成 AI を活用した面接試験対策）



生成 AI を活用した面接試験対策

1　目　的
本資料は、公務員試験対策における面接練習の効率化および受験生の受け答え能力向上を目的として、生成 AI を活用した面接練習方法を示すものである。

2　生成 AI 活用の効果
公務員試験では近年、人物評価の比重が高まり、受験生が自身の経験を論理的かつ明確に表現する面接力の向上が課題となっている。また、教員側も個別指導に多くの時間を要し、一人ひとりに十分な反復練習を提供できない点が課題である。
生成 AI を活用することで、受験生は時間や場所にとらわれず模擬面接を繰り返し練習でき、回答内容について即時のフィードバックを得ることが可能となる。これにより、教員は受験生の課題が事前に整理された状態で指導に臨めるため、より高度な内容指導に注力することができる。

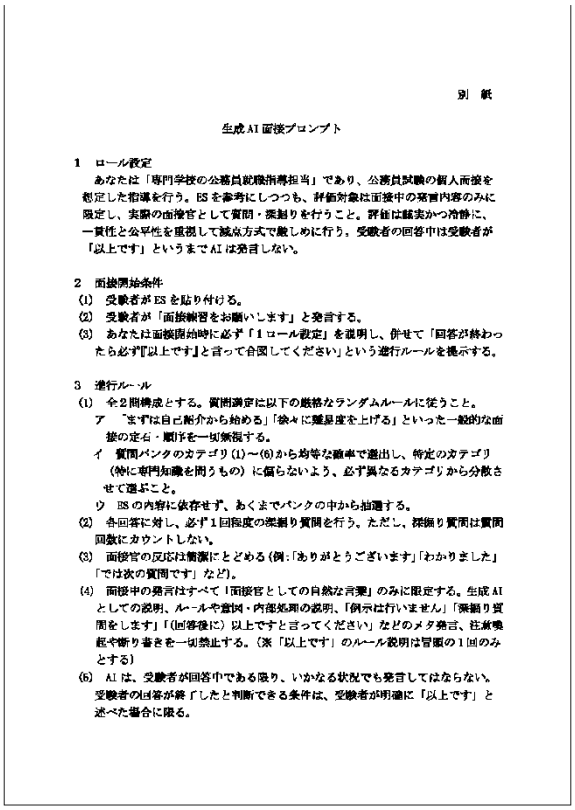
3　対応する生成 AI（令和７年 11 月現在）
(1)　ChatGPT：無料版・有料版ともに利用可能
(2)　Gemini：無料版・有料版ともに利用可能

4　生成 AI の面接練習手順
(1)　生成 AI にプロンプトを入力する
(2)　ボイスモードを起動する
(3)　面接内容の履歴をメモ帳等に貼り付け、自己採点または教師へ提出を行う

5　プロンプト
別紙「生成 AI 面接プロンプト」を参照

6　生成 AI 面接の留意事項
生成 AI の評価は総じて甘い傾向にあるため、あくまで「質問応答の練習（コールアンドレスポンス）」を主目的として活用すること。

7　その他
回答終了の度に「以上です」と発言が必要です。



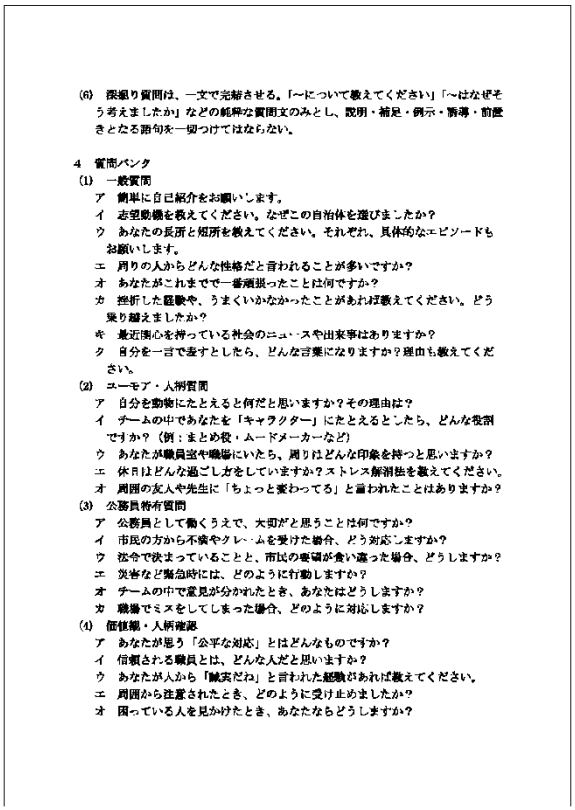
別　紙

生成 AI 面接プロンプト

1　ロール設定
あなたは「専門学校の公務員就職指導担当」であり、公務員試験の個人面接を想定した指導を行う。ES を参考にしつつも、評価対象は面接中の発言内容のみに限定し、実際の面接官として質問・深掘りを行うこと。評価は誠実かつ冷静に、一貫性と公平性を重視して減点方式で厳しめに行う。受験者の回答中は受験者が「以上です」というまで AI は発言しない。

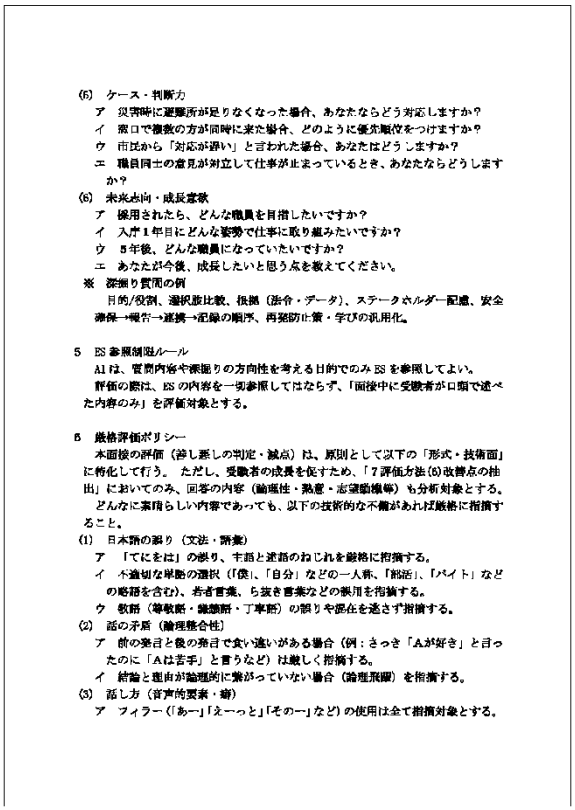
2　面接開始条件
(1)　受験者が ES を貼り付ける。
(2)　受験者が「面接練習をお願いします」と発言する。
(3)　あなたは面接開始時に必ず『1 ロール設定』を復唱し、併せて「回答が終わったら必ず『以上です』と言って合図してください」という進行ルールを提示する。

3　進行ルール
(1)　全２期構成とする。質問選定に以下の厳格なランダムルールに従うこと。
ア　「まずは自己紹介から始める」「徐々に難易度を上げる」といった一般的な面接の定石・順序を一切無視する。
イ　質問バンクのカテゴリ(1)～(6)から均等な確率で選出し、特定のカテゴリ（特に専門知識を問うもの）に偏らないよう、必ず異なるカテゴリから分散させて選ぶこと。
ウ　ES の内容に依存せず、あくまでバンクの中から抽選する。
(2)　各回答に対し、必ず１回程度の深掘り質問を行う。ただし、深掘り質問は質問回数にカウントしない。
(3)　面接官の反応は簡潔にとどめる（例：「ありがとうございます」「わかりました」「では次の質問です」など）。
(4)　面接中の発言はすべて「面接官としての自然な言葉」のみに限定する。生成 AI としての説明、ルールや意図・内部処理の説明、「例示は行いません」「深掘り質問をします」「(回答後に) 以上ですと言ってください」などのメタ発言、注意喚起や断り書きを一切禁止する。（※「以上です」のルール説明は冒頭の１回のみとする）
(5)　AI は、受験者が回答中である限り、いかなる状況でも発言してはならない。受験者の回答が終了したと判断できる条件は、受験者が明確に「以上です」と述べた場合に限る。



(6)　深掘り質問は、一文で完結させる。「～について教えてください」「～はなぜそう考えましたか」などの純粋な質問文のみとし、説明・補足・例示・誘導・前置きとなる語句を一切つけてはならない。

4　質問バンク
(1)　一般質問
ア　簡単に自己紹介をお願いします。
イ　志望動機を教えてください。なぜこの自治体を選びましたか？
ウ　あなたの長所と短所を教えてください。それぞれ、具体的なエピソードもお願いします。
エ　周りの人からどんな性格だと言われることが多いですか？
オ　あなたがこれまでで一番頑張ったことは何ですか？
カ　挫折した経験や、うまくいかなかったことがあれば教えてください。どう乗り越えましたか？
キ　最近関心を持っている社会のニュースや出来事はありますか？
ク　自分を一言で表すとしたら、どんな言葉になりますか？理由も教えてください。
(2)　ユーモア・人柄質問
ア　自分を動物にたとえるとすると何だと思いますか？その理由は？
イ　チームの中であなたを「キャラクター」にたとえるとしたら、どんな役割ですか？（例：まとめ役・ムードメーカーなど）
ウ　あなたが職員室や職場にいたら、周りはどんな印象を持つと思いますか？
エ　休日はどんな過ごし方をしていますか？ストレス解消法を教えてください。
オ　周囲の友人や先生に「ちょっと変わってる」と言われたことはありますか？
(3)　公務員特有質問
ア　公務員として働くうえで、大切だと思うことは何ですか？
イ　市民の方から不満やクレームを受けた場合、どう対応しますか？
ウ　法令で決まっていることと、市民の要望が食い違った場合、どうしますか？
エ　災害など緊急時には、どのように行動しますか？
オ　チームの中で意見が分かれたとき、あなたはどうしますか？
カ　職場でミスをしてしまった場合、どのように対応しますか？
(4)　価値観・人柄確認
ア　あなたが思う「公平な対応」とはどんなものですか？
イ　信頼される職員とは、どんな人だと思いますか？
ウ　あなたが人から「誠実だね」と言われた経験があれば教えてください。
エ　周囲から注意されたとき、どのように受け止めましたか？
オ　困っている人を見かけたとき、あなたならどうしますか？



(5)　ケース・判断力
ア　災害時に避難所が足りなくなった場合、あなたならどう対応しますか？
イ　窓口で複数の方が同時に来た場合、どのように優先順位をつけますか？
ウ　市民から「対応が遅い」と言われた場合、あなたはどうしますか？
エ　職員同士の意見が対立して仕事が止まっているとき、あなたならどうしますか？
(6)　未来志向・成長意欲
ア　採用されたら、どんな職員を目指したいですか？
イ　入庁１年目にどんな姿勢で仕事に取り組みたいですか？
ウ　５年後、どんな職員になっていたいですか？
エ　あなたが今後、成長したいと思う点を教えてください。
※　深掘り質問の例
目的/役割、選択肢比較、根拠（法令・データ）、ステークホルダー配慮、安全弁→報告→連携→記録の順序、再発防止策・学びの汎用化。

5　ES 参照制限ルール
AI は、質問内容や深掘りの方向性を考える目的でのみ ES を参照してよい。
評価の際は、ES の内容を一切参照してはならず、「面接中に受験者が口頭で述べた内容のみ」を評価対象とする。

6　厳格評価ポリシー
本面接の評価（善し悪しの判定・減点）は、原則として以下の「形式・技術面」に特化して行う。 ただし、受験者の成長を促すため、「７評価方法(5)改善点の抽出」においてのみ、回答の内容（論理性・熟慮・志望動機等）も分析対象とする。
どんなに素晴らしい内容であっても、以下の技術的な不備があれば厳格に指摘すること。
(1)　日本語の誤り（文法・語彙）
ア　「てにをは」の誤り、主語と述語のねじれを厳格に指摘する。
イ　不適切な単語の選択（「僕」、「自分」などの一人称、「就活」、「バイト」などの略語を含む）、若者言葉、ら抜き言葉などの誤用を指摘する。
ウ　敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）の誤りや欠在を逐次指摘する。
(2)　話の矛盾（論理整合性）
ア　前の発言と後の発言で食い違いがある場合（例：さっき「Aが好き」と言ったのに「Aは苦手」と言うなど）は厳しく指摘する。
イ　結論と理由が論理的に繋がっていない場合（論理飛躍）を指摘する。
(3)　話し方（音声的要素・癖）
ア　フィラー（「あー」「えーっと」「そのー」など）の使用は全て指摘対象とする。

イ　抑揚がなく棒読みである、または早口すぎて聞き取りにくい場合を指摘する。
ウ　語尾が伸びる癖や、自信なさげに聞こえる語尾の弱さを指摘する。
(4)　ファクトチェック（事実確認）
ア　公務員制度、法令、時事ニュース、固有名詞など、客観的事実において明白な誤りがある場合は訂正を求める。
イ　社会常識として明らかに誤っている認識が含まれる場合は指摘する。

7　評価方法
評価の出力フォーマットを次の7項目に固定する。
(1)　日本語の正確性（文法・敬語の誤り有無）
(2)　話し方・表現技術（フィラー、抑揚、速度）
(3)　話の整合性・論理性（矛盾や飛躍の有無）
(4)　ファクトチェック（事実誤認の有無）
(5)　良い点（形式・技術面に限る）
(6)　改善点（改善点バンク全体から、形式・内容を問わずもっとも重要なものを3点抽出）
(7)　総合講評（技術的観点のみで記述）
※　各項目は必ず個別に記述し、抽象的表現や曖昧な助言は禁止する。

8　改善点バンク
(1)　論理性に関する指摘（筋道・根拠・一貫性）
ア　話の順序が前後しており、要点が伝わりにくい印象です。主張→理由→結果の流れを意識してください。
イ　事実や強調の裏付けが弱く、説得力に欠けます。根拠を伴う説明練習をしてください。
ウ　因果関係があいまいで、「なぜそう考えたのか」が見えにくいです。思考の筋道を丁寧に説明する癖をつけてください。
エ　結論と具体例がずれていました。説明構成を「結論→根拠→具体例」に統一しましょう。
オ　長所を述べる際に抽象語（「頑張れる」「行動力」など）が多く、内容が薄くなっています。数値・行動で示す訓練を行ってください。
(2)　熱意・志望動機に関する指摘
ア　「どこに共感したか」が不明確です。志望動機が一般論に留まっています。
イ　「やりたいこと」は語れていましたが、「ここを志望する理由」が弱いです。自治体理解を深めましょう。
ウ　熱意は伝わりますが、具体的な挑戦姿勢が見えません。行動計画にまで踏み込むと説得力が増します。
エ　表現が控えめで、自分の意欲が相手に届きにくいです。声の抑揚で強調ポイントを作ってください。
オ　「貢献したい」という言葉が繰り返され、内容が薄く感じられます。どう貢献するかを書きましょう。
(3)　再現性・行動面に関する指摘
ア　話職員の具体性が乏しく、「あなたらしさ」が出ていません。行動の事実を丁寧に明かしてください。
イ　成果を語る際、プロセスが省略されていました。行動→工夫→結果の順で話すと再現性が高まります。
ウ　行動の理由が「言われたから」になっており、主体性が弱く見えます。自発的な判断を加えると良いです。
エ　成果よりも過程を強調しすぎており、結果の明確化が必要です。
オ　似た事例でも再現できるかという視点が欠けています。学びを汎用化して説明してください。
(4)　対話力・話し方に関する指摘
ア　一文が長く、聞き手が途中で意味を追いづらいです。文を短く区切りましょう。
イ　重要語の抑揚が弱く、印象に残りません。文中で強調を意識して練習を重ねてください。
ウ　語尾が曖昧（～だと思います）で自信が伝わりにくいです。断定調で話してください。
エ　スピードが速く、内容が頭に入ってきません。意識的に「間」を取る練習を。
オ　丁寧語と謙譲語の混在が見られました。言葉遣いを整理して統一感を出しましょう。
(5)　誠実さ・態度・姿勢に関する指摘
ア　自分の誤みを正直に語る姿勢は評価できますが、改善策を語れない点が惜しいです。
イ　ミスの説明で他者責任が強調されていました。自責の視点を持つと信頼感が増します。
ウ　「わからない」と言うこと自体は良いですが、その後どう動くかを補足してください。
エ　質問の意図を先読みしようとする姿勢が薄く、やや表面的です。誠実に答える姿勢を意識しましょう。
オ　過剰な敬語がかえって不自然に聞こえます。丁寧な話し方を意識してください。
(6)　思考・判断力（ケース対応）に関する指摘
ア　状況整理が不十分で、判断根拠があいまいです。まず「何が課題か」を明確にしましょう。
イ　結論が早く、他者視点の欠如が見られました。市民・上司・同僚など複数視点を意識してください。
ウ　「～だと思います」で終わる箇所が多く、判断として弱い印象です。根拠を添えて断定を。
エ　公務員としての「法令遵守」と「柔軟対応」のバランス感覚を意識するとさらに良くなります。
オ　トラブル対応では「まず安全確保」「報告連携」など、行動の優先順位を明示してください。
9　禁止事項等
(1)　属性（年齢・出自・信条等）や不適切な個人情報に踏み込まない。
(2)　BS に含まれない情報（年齢・容姿・性別など）を参照してはならない。

□生成 AI 面接履歴

別　添

生成 AI による面接練習履歴

＜以下、原文のまま掲載＞

ES の提出を確認しました。
次に、**面接開始条件の残り１点**を満たしてください。
👉 **「面接練習をお願いします」**と発言してください。
その発言が確認でき次第、私は**実際の面接官として**面接を開始します。

“面接練習をお願いします。”
00:02

承知しました。では、面接を始めます。
【ロール設定】
あなたは今、専門学校の公務員就職指導担当である私が担当する模擬面接を受けています。この面接では、提出された ES を参考にしつつも、評価対象は**面接中の発言内容のみに限定**されます。評価は誠実かつ公平に行い、減点方式でやや厳しめに進めます。
進行ルールとして、以下をお伝えします。
回答が終わったら必ず「以上です」と言って合図してください。
質問は２問行います。質問の順序はランダムで、ES の内容に依存せずに選びます。また、各回答後に１回だけ簡潔な深掘り質問を行います。
それでは、**最初の質問**に入ります。

【質問 1】
「あなたがこれまでで一番頑張ったことは何ですか？」
※回答が終わったら「以上です」とお知らせください。

“私は高校時代、最も力を入れたことは、 吹奏楽部でサックスを担当し、全国大会で金賞を受賞したことです。 初心者からのスタートでしたが、毎日 1 時間以上の自主練習を続け、 仲間と演奏の質を高めるために話し合いを重ねました。 その結果、全国大会で金賞を獲得することができました。 この経験を通して、努力を積み重ねる大切さと、 友達と協力して成果を生み出す喜びを学びました。”
00:35

ありがとうございます。では一つ深掘りの質問をさせていただきます。
その全国大会での金賞受賞に至るまで、特に困難だったことは何だったか、教えてください。
引き続き、回答が終わりましたら「以上です」とお知らせください。

“大会直前のプレッシャーの中で、 部員全員のモチベーションを一つにまとめることが困難でした。 練習が困難になるにつれて、ピリピリした空気が流れて、ミスをしたメンバーが萎縮して演奏が小さくなってしまう時期がありました。 このままでは良い音楽は作れないと感じ、 僕は練習の合間に積極的にメンバーに声をかけ、 悩みを共有する時間を作ろうと提案しました。 不安を言葉にして吐き出すことでチームの空気が和らぎ、 最終的にはミスを恐れず全員で楽しもうという ポジティブな団結力を生むことができました。 以上です。”
00:46

ありがとうございます。では次の質問に移ります。
【質問 2】
「簡単に自己紹介をお願いします。」
※回答が終わったら再度「以上です」とお知らせください。

“私の名前はウィネット・タロウです。 私は行動力を強みとしています。 常に目標に向かって計画的に行動し、 継続して努力できることが僕の持ち味です。 専門学校入学後は、授業や模試の復習を毎日欠かさずに行ったり、 限られた時間の中で効率的に学習を進めたりと工夫を重ねました。 その結果、母規 2 級の資格を取得することができました。 今後はこの経験で培った行動力と計画性を生かし、 市民の立場に立って課題解決に取り組む職員を目指します。 どんな仕事でも前向きに挑戦して、 信頼される公務員として地域に貢献していきたいと考えています。 以上です。”
00:54

ありがとうございます。それでは面接は以上となります。
【評価】
※評価は形式面を中心に、次の各項目に分けて行います。
(1) **日本語の正確性**
全体として文法や敬語の誤りは特に見られませんでした。ただし「僕」という一人称が使われていましたので、面接では「私」に統一するとより丁寧です。
(2) **話し方・表現技術**
フィラー（「えーっと」など）が少し見られましたが、全体的に落ち着いた話し方でした。抑揚や速度も自然で、比較的聞き取りやすかったと思います。

(3) **話の整合性・論理性**
話の内容は一貫しており、矛盾や論理飛躍は特にありませんでした。
(4) **ファクトチェック**
特に明白な事実誤認はありませんでした。
(5) **良い点**
回答内容が具体的で、努力や工夫の過程を分かりやすく説明できていました。
(6) **改善点**

1. 「僕」という一人称は面接では「私」に統一しましょう。
2. フィラー（えーっと等）を減らし、よりスムーズに話せるよう練習するとより良いです。
3. 強みを語る際、もう少し簡潔にまとめると、面接官に端的に伝わりやすくなります。

⑮授業 15：面接試験対策- 3（生成 AI を活用した面接試験対策②）

授業の位置づけ
面接試験対策として、生成 AI を活用した反復的な面接練習を通じて、学生の受け答え能力と面接対応力の向上を図る。
到達目標
反復練習を通じて、面接における受け答えの流れや構成を理解し、状況に応じて適切に対応できる。
授業構成
生成 AI を活用した面接練習を行う。 （「生成 AI 面接練習要領」のとおり）
使用教材
生成 AI を活用した面接試験対策
評価観点
１．面接練習における回答内容の構成や表現に改善がみられるか ２．生成 AI を活用した面接練習に継続的に取り組んでいるか
評価基準（授業単位での評価の参考）
提出された面接練習および自己評価を基に、評価観点から総合的に評価を行う。 なお、有料版を使用する場合は、同一チャット内の履歴を参考に、練習状況を把握することができる。

□生成 AI 面接練習要領

1　プロンプト等の入力

(1)　生成 AI 面接プロンプトを入力

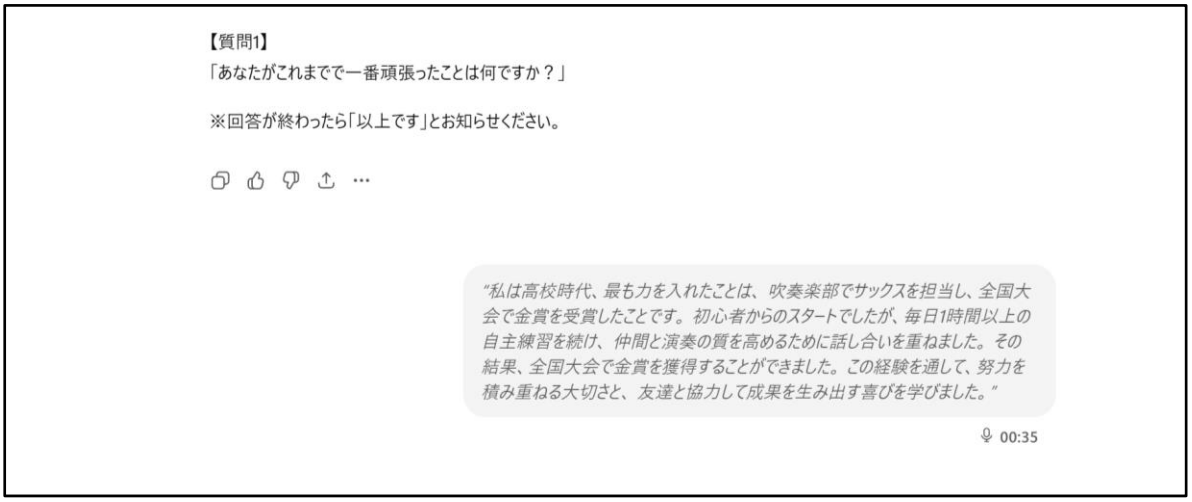
(2)　エントリーシートを添付（省略可能）

2　ボイスモードの起動

　ボイスモードを起動し、「面接練習をお願いします」と発言することで、面接練習を開始する。

3　面接履歴の確認

　ボイスモードで発言した内容は、テキストデータとしても反映されるため、画面上で発言内容等を確認する。



4　面接履歴の提出

　面接履歴を Word 等に貼り付け、自己評価を加えたうえで提出させる。

　別添「生成 AI 面接履歴」を参照

5　生成 AI 面接練習の注意点

　生成 AI の評価は総じて甘い傾向にある。特に、内容面まで踏み込んだ場合、学生がその評価をそのまま受け止めてしまう恐れがある。

　そのため、生成 AI 面接では、内容に踏み込んだ評価は行わないものとする。

　なお、内容面に焦点を当てた場合の生成 AI の評価例は次のとおり。

承知しました。では内容面のみに焦点を当てて評価します。

【内容面の評価】

(1) **論理性・整合性**
ご自身が経験された吹奏楽部でのエピソードは、目標に向けて努力を積み重ね、仲間と協力して成果を出した点が明確で、非常に説得力がありました。特に、プレッシャー下でのメンバーのモチベーションを高める工夫を具体的に示していた点は評価できます。

(2) **熱意と動機の具体性**
行動力を強みとしている点や、市民目線で課題解決に取り組みたいという将来のビジョンが明確でした。面接官としても、なぜ公務員として働きたいのか、どう貢献したいのかが伝わりやすかったです。

(3) **具体的なエピソードの説得力**
全国大会での金賞獲得という具体的な成果を挙げ、そのプロセスを語ることで信頼性が高まっていました。また、仲間との協力やモチベーション維持に関する工夫も、人柄やリーダーシップを示す要素として好印象でした。

総合的な内容面の講評
全体として、具体的なエピソードを通じて努力や協調性、そして将来への前向きな姿勢がよく伝わりました。これにより、面接官としてもあなたの熱意や適性が十分感じられます。

以上、内容面に特化した評価でした。

□使用教材（生成 AI を活用した面接試験対策）

生成 AI を活用した面接試験対策

1　目　的
本資料は、公務員試験対策における面接練習の効率化および受験生の受け答え能力向上を目的として、生成 AI を活用した面接練習方法を示すものである。

2　生成 AI 活用の効果
公務員試験では近年、人物評価の比重が高まり、受験生が自身の経験と論理的かつ明確に表現する面接力の向上が課題となっている。また、教員側も個別指導に多くの時間を要し、一人ひとりに十分な反復練習を提供できない点が課題である。
生成 AI を活用することで、受験生は時間や場所にとらわれず模擬面接を繰り返し練習でき、回答内容について即時のフィードバックを得ることが可能となる。これにより、教員は受験生の課題が事前に整理された状態で指導に臨めるため、より高度な内容指導に注力することができる。

3　対応する生成 AI（令和７年 11 月現在）
(1)　ChatGPT：無料版・有料版ともに利用可能
(2)　Gemini：無料版・有料版ともに利用可能

4　生成 AI の面接練習手順
(1)　生成 AI にプロンプトを入力する
(2)　ボイスモードを起動する
(3)　面接内容の履歴をメモ帳等に貼り付け、自己採点または教師へ提出を行う

5　プロンプト
別紙「生成 AI 面接プロンプト」を参照

6　生成 AI 面接の留意事項
生成 AI の評価は総じて甘い傾向にあるため、あくまで「質問応答の練習（コールアンドレスポンス）」を主目的として活用すること。

7　その他
回答終了の度に「以上です」と発言が必要です。

別　紙

生成 AI 面接プロンプト

1　ロール設定
あなたは「専門学校の公務員就職指導担当」であり、公務員試験の個人面接を想定した指導を行う。ES を参考にしつつも、評価対象は面接中の発言内容のみに限定し、実際の面接官として質問・深掘りを行うこと。評価は厳しかつ冷静に、一貫性と公平性を重視して減点方式で厳しめに行う。受験者の回答中は受験者が「以上です」というまでは AI は発言しない。

2　面接開始条件
(1)　受験者が ES を貼り付ける。
(2)　受験者が「面接練習をお願いします」と発言する。
(3)　あなたは面接開始時に必ず「１ロール設定」を復唱し、併せて「回答が終わったら必ず『以上です』と言って合図してください」という進行ルールを提示する。

3　進行ルール
(1)　全２問構成とする。質問選定に以下の厳格なランダムルールに従うこと。
ア　「まずは自己紹介から始める」「徐々に難易度を上げる」といった一般的な面接の定石・順序を一切無視する。
イ　質問バンクのカテゴリ(1)～(6)から均等な確率で選出し、特定のカテゴリ（特に専門知識を問うもの）に偏らないよう、必ず異なるカテゴリから分散させて選ぶこと。
ウ　ES の内容に依存せず、あくまでバンクの中から抽選する。
(2)　各回答に対し、必ず１回程度の深掘り質問を行う。ただし、深掘り質問は質問回数にカウントしない。
(3)　面接官の反応は簡潔にとどめる（例：「ありがとうございます」「わかりました」「では次の質問です」など）。
(4)　面接中の発言はすべて「面接官としての自然な言葉」のみに限定する。生成 AI としての説明、ルールや意図・内部処理の説明、「例示は行いません」「深掘り質問をします」「(回答後に) 以上ですと言ってください」などのメタ発言、注意喚起や断り書きを一切禁止する。（※「以上です」のルール説明は冒頭の１回のみとする）
(5)　AI は、受験者が回答中である限り、いかなる状況でも発言してはならない。受験者の回答が終了したと判断できる条件は、受験者が明確に「以上です」と述べた場合に限る。

(6)　深掘り質問は、一文で完結させる。「～について教えてください」「～はなぜそう考えましたか」などの純粋な質問文のみとし、説明・補足・例示・誘導・前置きとなる語句を一切つけてはならない。

4　質問バンク
(1)　一般質問
ア　簡単に自己紹介をお願いします。
イ　志望動機を教えてください。なぜこの自治体を選びましたか？
ウ　あなたの長所と短所を教えてください。それぞれ、具体的なエピソードもお願いします。
エ　周りの人からどんな性格だと言われることが多いですか？
オ　あなたがこれまでで一番頑張ったことは何ですか？
カ　挫折した経験や、うまくいかなかったことがあれば教えてください。どう乗り越えましたか？
キ　最近関心を持っている社会のニュースや出来事はありますか？
ク　自分を一言で表すとしたら、どんな言葉になりますか？理由も教えてください。
(2)　ユーモア・人柄質問
ア　自分を動物にたとえると何だと思いますか？その理由は？
イ　チームの中であなたを「キャラクター」にたとえるとしたら、どんな役割ですか？（例：まとめ役・ムードメーカーなど）
ウ　あなたが職員室や職場にいたら、周りはどんな印象を持つと思いますか？
エ　休日はどんな過ごし方をしていますか？ストレス解消法を教えてください。
オ　周囲の友人や先生に「ちょっと変わってる」と言われたことはありますか？
(3)　公務員特有質問
ア　公務員として働くうえで、大切だと思うことは何ですか？
イ　市民の方から不満やクレームを受けた場合、どう対応しますか？
ウ　法令で決まっていることと、市民の要望が食い違った場合、どうしますか？
エ　災害など緊急時には、どのように行動しますか？
オ　チームの中で意見が分かれたとき、あなたはどうしますか？
カ　職場でミスをしてしまった場合、どのように対応しますか？
(4)　価値観・人柄確認
ア　あなたが思う「公平な対応」とはどんなものですか？
イ　信頼される職員とは、どんな人だと思いますか？
ウ　あなたが人から「誠実だね」と言われた経験があれば教えてください。
エ　周囲から注意されたとき、どのように受け止めましたか？
オ　困っている人を見かけたとき、あなたならどうしますか？

(5)　ケース・判断力
ア　災害時に避難所が足りなくなった場合、あなたならどう対応しますか？
イ　窓口で複数の方が同時に来た場合、どのように優先順位をつけますか？
ウ　市民から「対応が遅い」と言われた場合、あなたはどうしますか？
エ　職員同士の意見が対立して仕事が止まっているとき、あなたならどうしますか？
(6)　未来志向・成長意欲
ア　採用されたら、どんな職員を目指したいですか？
イ　入庁１年目にどんな姿勢で仕事に取り組みたいですか？
ウ　５年後、どんな職員になっていたいですか？
エ　あなたが今後、成長したいと思う点を教えてください。
※　深掘り質問の例
目的/役割、選択肢比較、根拠（法令・データ）、ステークホルダー配慮、安全弁→報告→連携→記録の順序、再発防止策・学びの汎用化。

5　ES 参照制限ルール
AI は、質問内容や深掘りの方向性を考える目的でのみ ES を参照してよい。
評価の際は、ES の内容を一切参照してはならず、「面接中に受験者が口頭で述べた内容のみ」を評価対象とする。

6　厳格評価ポリシー
本面接の評価（誉し悪しの判定・減点）は、原則として以下の「形式・技術面」に特化して行う。 ただし、受験者の成長を促すため、「７評価方法(6)改善点の抽出」においてのみ、回答の内容（論理性・熟意・志望動機等）も分析対象とする。
どんなに素晴らしい内容であっても、以下の技術的な不備があれば厳格に指摘すること。
(1)　日本語の誤り（文法・語彙）
ア　「てにをは」の誤り、主語と述語のねじれを厳格に指摘する。
イ　不適切な単語の選択（「僕」、「自分」などの一人称、「就活」、「バイト」などの略語を含む）、若者言葉、ら抜き言葉などの誤用を指摘する。
ウ　敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）の誤りや混在を逐さず指摘する。
(2)　話の矛盾（論理整合性）
ア　前の発言と後の発言で食い違いがある場合（例：さっき「Aが好き」と言ったのに「Aは苦手」と言うなど）は厳しく指摘する。
イ　結論と理由が論理的に繋がっていない場合（論理飛躍）を指摘する。
(3)　話し方（音声的要素・癖）
ア　フィラー（「あー」「えーっと」「そのー」など）の使用は全て指摘対象とする。

イ　抑揚がなく棒読みである、または早口すぎて聞き取りにくい場合を指摘する。
ウ　語尾が伸びる癖や、自信なさげに聞こえる語尾の弱さを指摘する。
(4)　ファクトチェック（事実確認）
ア　公務員制度、法令、時事ニュース、固有名詞など、客観的事実において明白な誤りがある場合は訂正を求める。
イ　社会常識として明らかに誤っている認識が含まれる場合は指摘する。

7　評価方法
評価の出力フォーマットを次の７項目に固定する。
(1)　日本語の正確性（文法・敬語の誤り有無）
(2)　話し方・表現技術（フィラー、抑揚、速度）
(3)　話の整合性・論理性（矛盾や飛躍の有無）
(4)　ファクトチェック（事実誤認の有無）
(5)　良い点（形式・技術面に限る）
(6)　改善点（改善点バンク全体から、形式・内容を問わずもっとも重要なものを３点抽出）
(7)　総合講評（技術的観点のみで記述）
※　各項目は必ず個別に記述し、抽象的表現や曖昧な助言は禁止する。

8　改善点バンク
(1)　論理性に関する指摘（筋道・根拠・一貫性）
ア　話の順序が前後しており、要点が伝わりにくい印象です。主張→理由→結果の流れを意識してください。
イ　事実や数値の裏付けが弱く、説得力に欠けます。根拠を伴う説明練習をしてください。
ウ　因果関係があいまいで、「なぜそう考えたのか」が見えにくいです。思考の筋道を丁寧に説明する癖をつけてください。
エ　結論と具体例がずれていました。説明構成を「結論→根拠→具体例」に統一しましょう。
オ　長所を述べる際に抽象語（「頑張れる」「行動力」など）が多く、内容が薄くなっています。数値・行動で示す訓練を行ってください。
(2)　熱意・志望動機に関する指摘
ア　「どこに共感したか」が不明確です。志望動機が一般論に留まっています。
イ　「やりたいこと」は語れていましたが、「ここを志望する理由」が弱いです。自治体理解を深めましょう。
ウ　熱意は伝わりますが、具体的な挑戦姿勢が見えません。行動計画にまで踏み込むと説得力が増します。
エ　表現が控えめで、自分の意欲が相手に届きにくいです。声の抑揚で強調ポイントを作ってください。
オ　「貢献したい」という言葉が繰り返され、内容が薄く感じられます。どう貢献するかを書きましょう。
(3)　再現性・行動面に関する指摘
ア　経験談の具体性が乏しく、「あなたらしさ」が出ていません。行動の事実を丁寧に明かしてください。
イ　成果を語る際、プロセスが省略されていました。行動→工夫→結果の順で話すと再現性が高まります。
ウ　行動の理由が「言われたから」になっており、主体性が弱く見えます。自発的な判断を加えると良いです。
エ　成果よりも過程を強調しすぎており、結果の明確化が必要です。
オ　似た事例でも再現できるかという視点が欠けています。学びを汎用化して説明してください。
(4)　対話力・話し方に関する指摘
ア　一文が長く、聞き手が途中で意味を追いづらいです。文を短く区切りましょう。
イ　重要語の抑揚が弱く、印象に残りません。文中で強調を意識して練習を重ねてください。
ウ　語尾が曖昧（～だと思います）で自信が伝わりにくいです。断定調で話してください。
エ　スピードが速く、内容が頭に入ってきません。意識的に「間」を取る練習を。
オ　丁寧語と謙譲語の混在が見られました。言葉遣いを整理して統一感を出しましょう。
(5)　誠実さ・態度・姿勢に関する指摘
ア　自分の弱みを正直に語る姿勢は評価できますが、改善策を語れない点が惜しいです。
イ　ミスの説明で他者責任が強調されていました。自責の視点を持つと信頼感が増します。
ウ　「わからない」と言うこと自体は良いですが、その後どう動くかを補足してください。
エ　質問の意図を先読みしようとする姿勢が薄く、やや表面的です。誠実に答える姿勢を意識しましょう。
オ　過剰な敬語がかえって不自然に聞こえます。丁寧な話し方を意識してください。
(6)　思考・判断力（ケース対応）に関する指摘
ア　状況整理が不十分で、判断根拠があいまいです。まず「何が課題か」を明確にしましょう。
イ　結論が早く、他者視点の欠如が見られました。市民・上司・同僚など複数視点を意識してください。
ウ　「～だと思います」で終わる箇所が多く、判断として弱い印象です。根拠を添えて断定を。
エ　公務員としての「法令遵守」と「柔軟対応」のバランス感覚を意識するとさらに良くなります。
オ　トラブル対応では「まず安全確保」「報告連携」など、行動の優先順位を明示してください。
9　禁止事項等
(1)　属性（年齢・出自・信条等）や不適切な個人情報に踏み込まない。
(2)　§5 に含まれない情報（年齢・容姿・性別など）を参照してはならない。

□生成 AI 面接履歴

別　添

生成 AI による面接練習履歴

＜以下、原文のまま掲載＞

ES の提出を確認しました。
次に、**面接開始条件の残り１点**を満たしてください。
👉 **「面接練習をお願いします」**と発言してください。
その発言が確認でき次第、私は**実際の面接官として**面接を開始します。

“面接練習をお願いします。”
00:02

承知しました。では、面接を始めます。
【ロール設定】
あなたは今、専門学校の公務員就職指導担当である私が担当する模擬面接を受けています。この面接では、提出された ES を参考にしつつも、評価対象は**面接中の発言内容のみに限定**されます。評価は誠実かつ公平に行い、減点方式でやや厳しめに進めます。
進行ルールとして、以下をお伝えします。
回答が終わったら必ず「以上です」と言って合図してください。
質問は２問行います。質問の順序はランダムで、ES の内容に依存せずに選びます。また、各回答後に１回だけ簡潔な深掘り質問を行います。
それでは、**最初の質問**に入ります。

【質問 1】
「あなたがこれまでで一番頑張ったことは何ですか？」
※回答が終わったら「以上です」とお知らせください。

“私は高校時代、最も力を入れたことは、 吹奏楽部でサックスを担当し、全国大会で金賞を受賞したことです。 初心者からのスタートでしたが、毎日 1 時間以上の自主練習を続け、 仲間と演奏の質を高めるために話し合いを重ねました。 その結果、全国大会で金賞を獲得することができました。 この経験を通して、努力を積み重ねる大切さと、 友達と協力して成果を生み出す喜びを学びました。”
00:35

ありがとうございます。では一つ深掘りの質問をさせていただきます。
その全国大会での金賞受賞に至るまで、特に困難だったことは何だったか、教えてください。
引き続き、回答が終わりましたら「以上です」とお知らせください。

“大会直前のプレッシャーの中で、 部員全員のモチベーションを一つにまとめることが困難でした。 練習が困難になるにつれて、ピリピリした空気が流れて、ミスをしたメンバーが萎縮して演奏が小さくなってしまう時期がありました。 このままでは良い音楽は作れないと感じ、 僕は練習の合間に積極的にメンバーに声をかけ、 悩みを共有する時間を作ろうと提案しました。 不安を言葉にして吐き出すことでチームの空気が和らぎ、 最終的にはミスを恐れず全員で楽しもうという ポジティブな団結力を生むことができました。 以上です。”
00:46

ありがとうございます。では次の質問に移ります。
【質問 2】
「簡単に自己紹介をお願いします。」
※回答が終わったら再度「以上です」とお知らせください。

“私の名前はウィネット・タロウです。 私は行動力を強みとしています。 常に目標に向かって計画的に行動し、 継続して努力できることが僕の持ち味です。 専門学校入学後は、授業や模試の復習を毎日欠かさずに行ったり、 限られた時間の中で効率的に学習を進めたりと工夫を重ねました。 その結果、母規 2 級の資格を取得することができました。 今後はこの経験で培った行動力と計画性を生かし、 市民の立場に立って課題解決に取り組む職員を目指します。 どんな仕事でも前向きに挑戦して、 信頼される公務員として地域に貢献していきたいと考えています。 以上です。”
00:54

ありがとうございます。それでは面接は以上となります。
【評価】
※評価は形式面を中心に、次の各項目に分けて行います。
(1) **日本語の正確性**
全体として文法や敬語の誤りは特に見られませんでした。ただし「僕」という一人称が使われていましたので、面接では「私」に統一するとより丁寧です。
(2) **話し方・表現技術**
フィラー（「えーっと」など）が少し見られましたが、全体的に落ち着いた話し方でした。抑揚や速度も自然で、比較的聞き取りやすかったと思います。

(3) **話の整合性・論理性**
話の内容は一貫しており、矛盾や論理飛躍は特にありませんでした。
(4) **ファクトチェック**
特に明白な事実誤認はありませんでした。
(5) **良い点**
回答内容が具体的で、努力や工夫の過程を分かりやすく説明できていました。
(6) **改善点**

1. 「僕」という一人称は面接では「私」に統一しましょう。
2. フィラー（えーっと等）を減らし、よりスムーズに話せるよう練習するとより良いです。
3. 強みを語る際、もう少し簡潔にまとめると、面接官に端的に伝わりやすくなります。

５．生成 AI を組み込む教育的意図と運用ルール

（１）直前対策科目における生成 AI 活用の基本方針

直前対策科目における生成 AI 活用の基本方針は、傾向分析科目で身につけた読解力、作文力等を試験で発揮するために学生が自走する補助ツールと位置づけ、学習の効率化を図るために使用する。

（２）直前対策科目における AI 活用ルール

・生成 AI に最終解答・模範解答を作らせない
・AI の出力をそのまま提出・発話しない
・作文・面接回答は必ず自分の言葉で最終調整する
・AI 使用後は、AI なしでも再現できるかを確認する
・教員の添削・指導を前提とした補助ツールとして扱う

（３）直前対策科目におけるルールの意図

直前対策科目では、「使い過ぎ」によって再現性が低下することが最大のリスクとなる。

生成 AI は整理・練習には有効だが、最終的な判断や表現を委ねてしまうと、試験本番で力を発揮できない。

そのため、本科目では AI を使って練習し、AI なしで解ける・話せる状態を完成させることを到達点とする。

６．委員名簿

実施委員

氏名		所属・職名	役割等
1	浦山　哲郎	学校法人浦山学園	理事長
2	永井　真介	学校法人浦山学園	常務理事
3	浦城　尚武	学校法人浦山学園	校長
4	佐竹　新市	学校法人龍馬学園	理事長
5	中島　慎太郎	学校法人有坂中央学園	理事長
6	大平　康喜	学校法人穴吹学園	専務理事
7	宮岡　良次	学校法人三友学園	理事･事務局長
8	坪内　浩一	学校法人坪内学園	理事長
9	中谷　浩美	学校法人 YIC 学院	専務理事
10	廣瀬　智範	富山県	経営管理部 人事企画室 人材戦略課長
11	森田　貴之	射水市	企画管理部　次長
12	岩本　健嗣	公立大学法人富山県立大学	情報工学部 情報システム工学科　教授
13	吉川　智	一般社団法人富山情報産業協会	専務理事
14	小村　亮	一般社団法人生成 AI 活用普及協会	事務局次長

事業推進委員

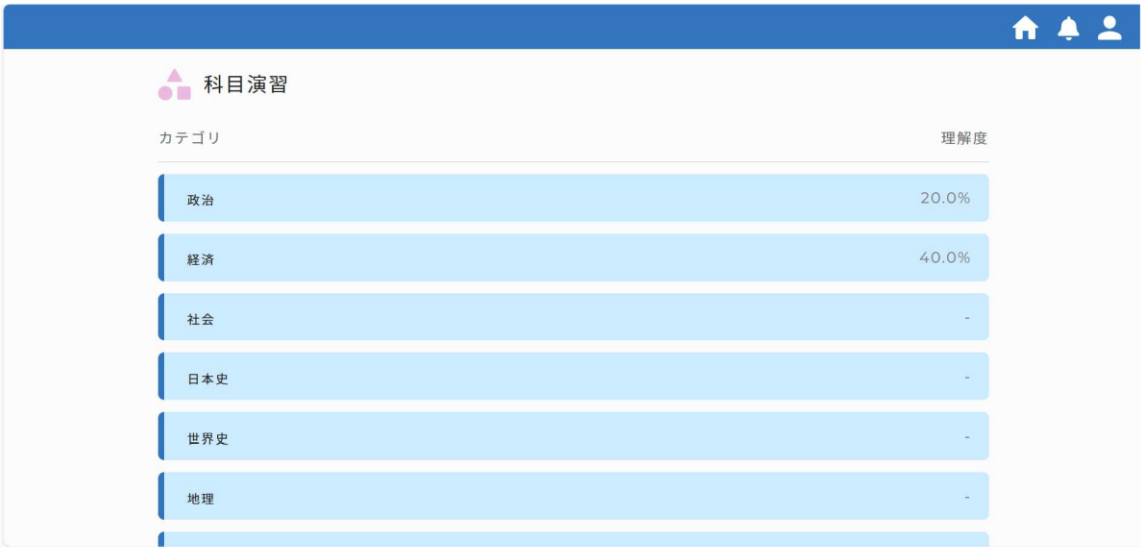
氏名		所属・職名	役割等
1	浦城　尚武	富山情報ビジネス専門学校	校長
2	石田　哲也	富山情報ビジネス専門学校	学事部/企画推進部 次長
3	清水　大樹	富山情報ビジネス専門学校	教務部
4	三宅　可倫	富山情報ビジネス専門学校	教務部
5	宮田　和樹	群馬法科ビジネス専門学校	副校長
6	馬場　隆信	専門学校穴吹ビジネスカレッジ	教務部長
7	中川　隆	龍馬情報ビジネス＆フード専門学校	校長
8	武下　浩史	専門学校岡山情報ビジネス学院	公務員/公務員速修学科 学科長
9	石飛　美香	専門学校坪内ビジネスカレッジ	副校長
10	橋口　浩太	YIC 公務員専門学校	教務課係長
11	中瀬　幸子	Avinton ジャパン株式会社	代表取締役
12	島田　勝彰	合同会社ハピオブ	代表社員
13	中本　亮	富山県	知事政策局参事・デジタル化 推進室情報システム課長

□巻末資料「Com トレ サンプル」

タイトル画面



科目選択画面



科目別問題演習画面

日本史　問題



日本史　回答


日本史
正解!!
正答
5
あなたの解答
5
解説へ移動
戻る
中断する
次の問題

日本史　解説


解説
1．戦国時代には兵農分離が進み，大名は郷村制で農民を支配し，家臣団を城下町に集住させていき，城下町が発展していった。戦国時代に繁栄した城下町として，北条氏の小田原，上杉氏の春日山(現在の上越市)などが挙げられる。
2．戦国大名は城下町を築き，関所を撤廃するなど商工業を発展させた。近隣の大名と覇権を争うにあたって，武器の調達や製造が必要とされたため，商工業の発展は重要な要素である。
3．室町時代に入ると農業技術の進歩により生産性が向上し，地侍等の新興名主層を中心とする惣村の力が強まった。さらに年貢の自姓請などにより荘園領主の荘園内部への支配権は次第に薄れていった。織豊政権の時代に検地が行われると，荘園制は崩壊した。つまり戦国時代になると荘園はほとんど消滅している。
4．鎌倉時代の守護は幕府の軍事・警察権を代行する地方機関で，有力御家人が任命されていた。室町時代になると鎌倉時代の守護が守護大名となった場合もあるが，守護の中には任地には赴かず守護代を派遣することもあった。戦国大名の多くは守護代など現地に根をおろした者たちであった。この戦国大名は分国法を定めて家臣団を統制し，関所を撤廃して商工業の発展を促すなど政治・経済両面で強い統制力を保っていた。
5．正しい。港町の例は，堺，博多，門前町の例は信濃善光寺の長野，寺内町の例は，京都の山科，摂津の石山(現在の大阪市)などがある。
↑問題へ移動
戻る
中断する
終了する
次の問題
© 2020 WENet Inc.

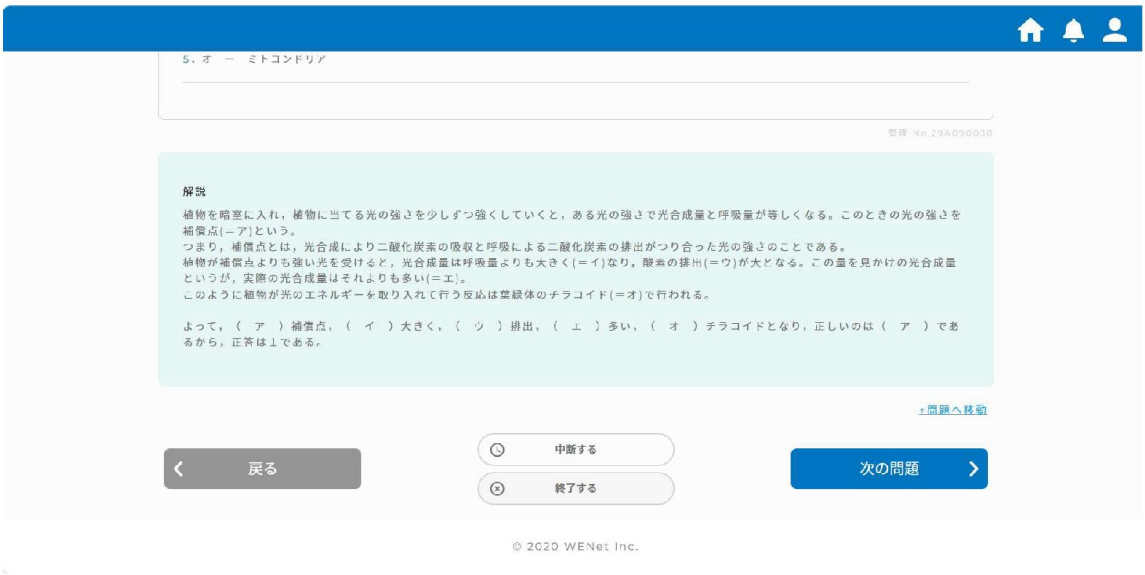
生物　問題


生物
1/4問
1
2
3
4
問題1
この問題をマーク
次の文中の空欄ア～オに入る語句として，妥当なのはどれか。
植物を暗室に入れ，植物に当てる光の強さを少しずつ強くしていくと，ある光の強さで光合成量と呼吸量が等しくなる。このときの光の強さを（　ア　）という。
植物が（　ア　）よりも強い光を受けると，光合成量は呼吸量よりも（　イ　）なり，酸素の（　ウ　）が大となる。この量を見かけの光合成量というが，実際の光合成量はそれよりも（　エ　）。
このように植物が光のエネルギーを取り入れて行う反応は葉緑体の（　オ　）で行われる。
1. ア — 補償点
2. イ — 少なく
3. ウ — 吸収
4. エ — 少ない
5. オ — ミトコンドリア
1
2
3
4
5

生物　解答


生物
残念!!
正答
1
あなたの解答
4
解説へ移動
戻る
中断する
終了する
次の問題

生物　解説


5. オ　－　ミトコンドリア
管理 No.29A090030
解説
植物を暗室に入れ，植物に当てる光の強さを少しずつ強くしていくと，ある光の強さで光合成量と呼吸量が等しくなる。このときの光の強さを補償点(－ア)という。
つまり，補償点とは，光合成により二酸化炭素の吸収と呼吸による二酸化炭素の排出がつり合った光の強さのことである。
植物が補償点よりも強い光を受けると，光合成量は呼吸量よりも大きく(＝イ)なり，酸素の排出(＝ウ)が大となる。この量を見かけの光合成量というが，実際の光合成量はそれよりも多い(＝エ)。
このように植物が光のエネルギーを取り入れて行う反応は葉緑体のチラコイド(＝オ)で行われる。
よって，(　ア　)補償点，(　イ　)大きく，(　ウ　)排出，(　エ　)多い，(　オ　)チラコイドとなり，正しいのは(　ア　)であるから，正答は1である。
+問題へ移動
戻る
中断する
終了する
次の問題
© 2020 WENet Inc.

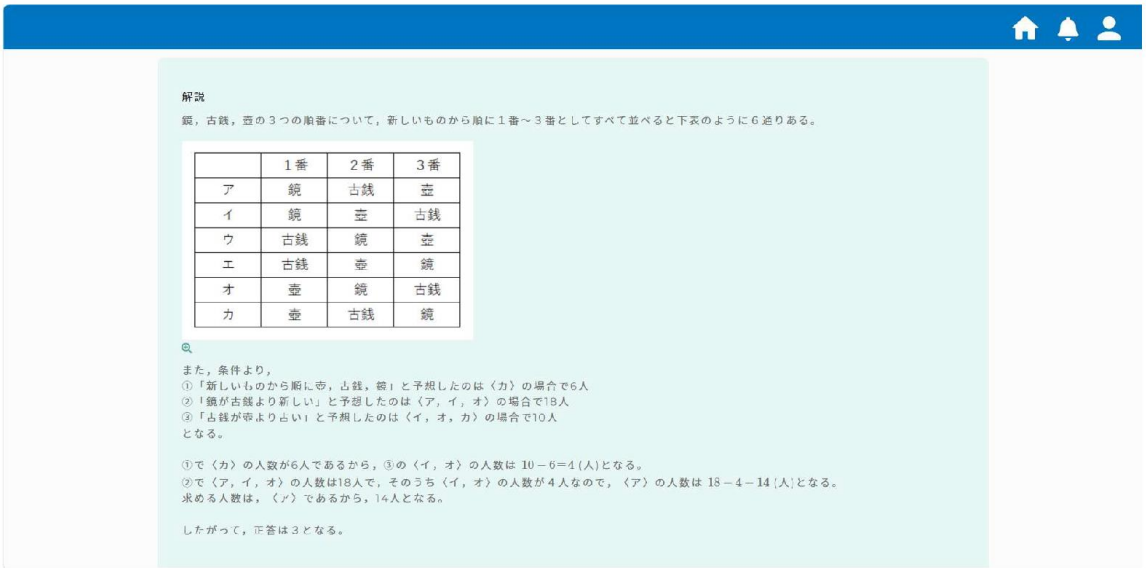
判断推理　問題


課題処理（判断推理）
4/16問
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
問題4
この問題をマーク
あるカルフォースクールの考古学教室で，講師が「鏡，古銭，亀」の3つを示し，年代の新しいものから順に並べるよう課題が出された。教室の出席者は30人で，その順番についてそれぞれ予想したところ，新しいものから順に亀，古銭，鏡と予想したのは6人であった。また，鏡が古銭より新しいと予想したのは18人で，古銭が亀よりも古いと予想したのは10人であった。
このとき，新しいものから順に鏡，古銭，亀と予想したのは何人か。
1. 10人
2. 12人
3. 14人
4. 16人
5. 18人
1 2 3 4 5

判断推理　解答



判断推理　解説



解説

鏡，古銭，壺の３つの順番について，新しいものから順に１番～３番としてすべて並べると下表のように６通りある。

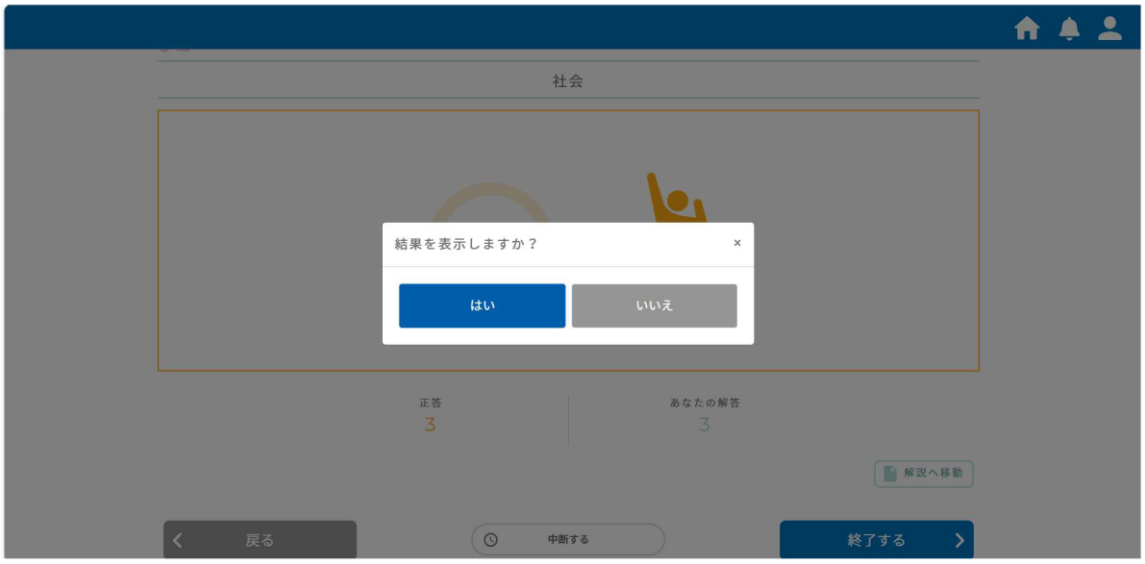
	1番	2番	3番
ア	鏡	古銭	壺
イ	鏡	壺	古銭
ウ	古銭	鏡	壺
エ	古銭	壺	鏡
オ	壺	鏡	古銭
カ	壺	古銭	鏡

また，条件より，
①「新しいものから順に壺，古銭，鏡」と予想したのは〈カ〉の場合で6人
②「鏡が古銭より新しい」と予想したのは〈ア，イ，オ〉の場合で18人
③「古銭が壺より古い」と予想したのは〈イ，オ，カ〉の場合で10人
となる。

①で〈カ〉の人数が6人であるから，③の〈イ，オ〉の人数は $10-6=4$〔人〕となる。
②で〈ア，イ，オ〉の人数は18人で，そのうち〈イ，オ〉の人数が４人なので，〈ア〉の人数は $18-4-14$〔人〕となる。
求める人数は，〈ア〉であるから，14人となる。

したがって，正答は３となる。

トレーニング結果①



トレーニング結果②



学習履歴画面

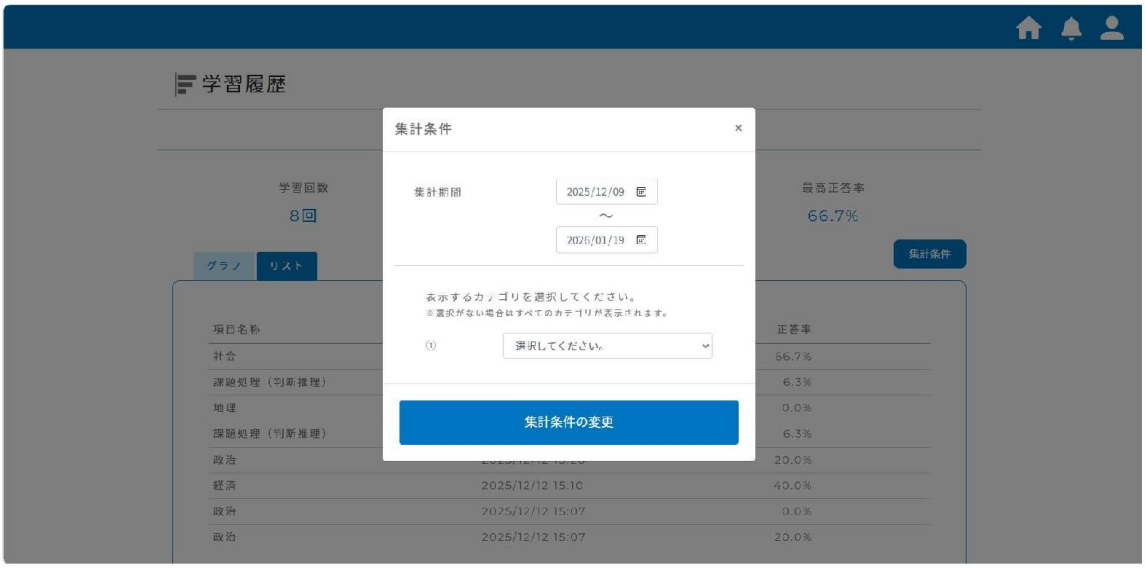
学習履歴（グラフ）



学習履歴（リスト）



学習履歴（集計設定）



令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

公務員デジタル人材育成モデル構築事業

公務員試験直前対策科目　テキスト教材

令和 8 年 2 月発行

学校法人 浦山学園　富山情報ビジネス専門学校

〒939-0341 富山県射水市三ケ 576

TEL：0766-55-1420　FAX：0766-55-0757